

未来をつくる実践目標

チャレンジ 2023

(令和5年度 主要政策)



令和5年8月

福井県

はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。

今回、冒頭の令和5年度の主要政策をご紹介し、北陸新幹線福井・敦賀開業を迎えるこの5年間に最重点化して実行する政策「新時代スタートアッププロジェクト」の主なプロジェクトをまとめています。

長期ビジョンの体系で整理した主な施策については、別冊として、とりまとめましたので、県未来戦略課のホームページからご覧ください。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、「チームふくい」で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

目次

令和5年度 主要政策	1
------------	---

新時代スタートアップ主要プロジェクト

(1) ふくいエンタメ計画 ～ふくいの魅力をとがらせよう～	4
(2) 次世代チャレンジ宣言 ～チャレンジで未来をつくろう～	5
(3) しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになろう～	7

令和5年度 分野別の主要政策（別冊）

I 学びを伸ばす（人材力）

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成	3
政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり	6
政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	8
政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援	12

II 成長を創る（産業力）

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ	15
政策6 地域経済のイノベーション	20
政策7 Society 5.0時代の新産業創出	24
政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ	27

III 楽しみを広げる（創造力）

政策9 100年に一度のまちづくり	29
政策10 北陸新幹線開業効果を最大化	33
政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略	37
政策12 文化・スポーツがふくいの活力	40

IV 安心を高める（地域力）

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル	42
政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉	44
政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持	47
政策16 防災・治安先進県ふくいの実現	50

V とともに進める（総合力）

政策17 「チームふくい」の行政運営	53
政策18 広域パートナーシップの強化	56

※項目については、長期ビジョンの体系で整理しています。

参考 持続可能な開発目標（SDGs）

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

2030年を年限とする17のゴールの下に、169のターゲット、232の指標が定められており、日本においては、「あらゆる人々の活躍の推進」、「健康・長寿の達成」など8つの優先課題を掲げた実施指針を策定し、取り組みを進めています。



SDGsの17のゴール（目標）

1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	10 人や国の不平等をなくそう	各国内および各国間の不平等を是正する
2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	11 住み続けられるまちづくりを	包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子の能力強化を行う	14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
8 働きがいも経済成長も	包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーション（技術革新）の拡大を図る		

令和5年度 重点施策

新幹線開業効果を最大化・持続化

高速交通網の整備促進



レール締結式「提供：JRTT 鉄道・運輸機構」

北陸新幹線の福井・敦賀開業を年度末に控え、駅周辺やアクセス道路を着実に整備します。敦賀以西は、一日も早い認可・着工および全線開業を実現するよう、政府・与党に強く働きかけます。

また、中部縦貫自動車道 勝原～九頭竜間を秋までに開通し、舞鶴若狭自動車道は年内に4車線化工事に着手します。

まちづくり・観光地の磨き上げ



恐竜博物館

恐竜博物館のリニューアルオープンや、東尋坊・三方五湖エリアへの観光拠点整備などにより、観光地をさらにレベルアップ。また、福井城址の活用など駅周辺のまちづくりを推進します。

一乗谷朝倉氏遺跡の回遊環境を整備するなど、博物館を含む全体を「日本最大の戦国フィールドミュージアム」として魅力を高めます。

万全の体制でおもてなし



コンセプトルームのイメージ

駅発着の定期観光バスツアーの造成や観光定額タクシー、まちなかデマンド交通の実施などにより、二次交通を充実させ利便性を向上します。

また、観光資源を活かしたコンセプトルームなど多様かつ魅力的な宿泊施設や飲食店等の開設支援により、魅力ある食事・宿泊場所を増やし、観光消費の拡大につなげます。

誘客プロモーションの強化



カウントダウンキャンペーン

大手マスメディアやJR東日本等との連携などにより首都圏でのプロモーションを展開し、コロナ禍から反転攻勢します。

また、日本スポーツマスターズ2023福井大会や、いよいよ初開催を迎えるふくい桜マラソンなど、全国規模の大会を通じて、スポーツによる交流人口を拡大します。

若者や女性の活躍を徹底応援

若者の希望を叶える応援



希望が叶う結婚のイメージ

結婚新生活にかかる費用を支援し、結婚を希望する若い世代を後押しします。また、地域活性化にチャレンジする若者の取組みを支援し、若者の夢や希望の実現を徹底的に応援します。

働く人の幸せ実感を重視した経営塾の開講や、賃上げなど「人への投資」を進める企業の支援等により、社員のウェルビーイング向上を推進します。

働きがいと家庭時間の両立を支援



男性の育児休業取得や家事参加の促進により、家族で家事を一緒に楽しむ共家事を拡大し、仕事のやりがいと家庭時間を両立できる環境づくりを推進します。

また、女性活躍推進フォーラムの開催やコンシェルジュによる企業の女性育成・登用支援、学生と企業の女性管理職等との交流会等の実施により、働く女性が叶えたいキャリアに挑戦できる環境をつくります。

日本一幸福な子育て県「ふく育県」の拡大

社会全体で子育てを応援



妊娠期から出産・子育てまで、身近な伴走型の相談支援と経済的支援を一体的に実施するほか、保育人材の確保等による預け先の充実など、子育てを応援する社会づくりを進めます。

また、日本一の不妊治療助成や多子世帯の経済負担を軽減する「子たくさんふくいプロジェクト」を引き続き実施します。

子育て世帯の移住を促進

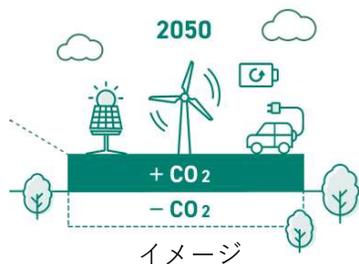


大規模な交流会を開催する移住サポーターの活動支援や、子育て世帯向けの移住支援金の拡充など、移住先として選ばれるための施策を強化します。

さらに、都市部の家族が、子どもを保育園等に一時的に預けながらワーケーションにより県内滞在するモデルケースの構築や、若者や子育て世代をターゲットとした福井の生活環境をPRする短編ドラマの配信により、福井への移住ブームを創出します。

長期ビジョンの着実な推進

ゼロカーボンふくいの推進



2030年度の温室効果ガス排出量49%削減（2013年度比）、さらに2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて、次世代自動車の購入や電気自動車用充電インフラの整備等を加速します。

また、「ふく割」を活用した電子クーポンを発行し、電気消費量の大きいエアコン・冷蔵庫の購入を支援します。

暮らしを守る防災力の向上



目視外飛行による確認のイメージ

災害発生時に、目視外自動飛行機能を備えた災害用ドローンの活用により、被災状況を早期に把握し、県民に対して迅速かつ正確な情報提供を行う体制を整えます。

地域防災マップの作成や水位計の設置など市町が行う防災対策事業を支援し、先手の対策による円滑な住民避難を実現します。

生活に身近なDXの拡大



未来技術を活用した実証プロジェクトを誘致するとともに、住民発の地域課題解決をデジタル技術により解決するシビックテックを推進します。

また、「デジタル地域通貨」を導入し、個人を特定した迅速な給付金の実施や、柔軟・個別的なインセンティブ付与による県民の行動変容など、生活のDXを推進します。

成長産業の創出



ライブコマースでの配信イメージ

自動操舵システムやドローン等によるスマート農業の推進や、デジタル技術を活用した農林水産物の販売等の拠点となる次世代型の施設整備を支援します。

また、企業のDXを進めるため、デジタルツールを試験的に導入する実践研修の開催や、DX開拓員や外部コンサルによる導入支援等を行います。

新時代スタートアップ

主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は \\ とんがろう、ふくい //  長期VISION
新時代スタートアップ★プロジェクト

ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどのとがった魅力でたくさんの人を呼び込もう！

みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事をみんなで増やそう！

みんながしあわせな、新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、持ち寄ろう！

みんなの「小さなアクション」を積み重ねて、ふくいを変えよう！



(1)ふくいエンタメ計画 ～ふくいの魅力をとがらせよう～

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなで作ります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

- 福井駅西口市街地再開発を支援
- 「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺のにぎわい創出など官民連携による県都のまちづくりを推進
- 新幹線駅の駅前広場の整備や金ヶ崎地区等を中心とした敦賀のまちづくりを推進
- 県内新幹線駅からの二次交通の充実

観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や定期観光バスツアーの造成などを推進し、新幹線開業に向け、誘客を拡大します。

- 恐竜博物館のフルモデルチェンジに向け、整備を促進
- 東尋坊・三方五湖エリアにおける観光拠点整備を支援
- 若狭湾サイクリングルート¹の走行環境・受入環境等を整備
- 新幹線利用客をターゲットとした駅発着の定期観光バスツアーの造成
- 多様かつ魅力的な宿泊施設の整備を支援
- 福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラを誘致
- 日本一選ばれるお米「いちほまれ」に向け販売店舗を拡大
- 「日本一のそばどころ」ふくいを全国に発信
- ブランド魚「若狭ぐじ」「越前がれい」「ふくい甘えび」「若狭まはた」等、四季を通して発信
- 新しい代表食材5品目の一体的なプロモーションを強化
- 都市圏のターゲット層に対して“売り”となる必食の逸品を発信

- 食ブランド向上につながる飲食店等の開設を支援し、魅力的な食を楽しむ「場」を拡大
- インバウンド対策 Wi-Fi・キャッシュレス決済・免税店を整備
- 敦賀以西への誘客促進のため嶺南誘客キャンペーンを開催

○国体レガシーを活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

- アスリートナイトゲームズ、日本スポーツマスターズ2023福井大会などスポーツイベントの開催を支援
- ふくい桜マラソン開催に向けた機運を醸成
- トップスポーツチームを「ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUI RAYS)」として徹底応援
- 「スポジョブふくい」によるアスリートのUIターンを推進

○まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

- 誰もが発表できる「まちなかステージ」の設置を支援
- アーティストが地域資源を活かして制作活動を行うアートプロジェクトを応援
- 県内デザイナーと連携し、一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客策を展開

伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

- 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムを造成
- 県内外のデザイナー等と連携し伝統工芸ブランド「F-TRAD」による商品を開発

(2)次世代チャレンジ宣言 ~チャレンジで未来をつくろう~

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

- **知事のトップセールス**による先端企業の誘致を促進
- **高付加価値企業**や、**都市圏同様の待遇**の維持など魅力ある企業を誘致

「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

- 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで**有望ベンチャーを育成**
- 独創的なアイデアを持つ**学生・若者スタートアップ**を創出
- 事業承継に向けた**企業価値向上**と**県外人材等による第三者承継**を支援
- 働きやすい職場づくりに取り組む**「社員ファースト企業」**を拡大

成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

- 産業技術総合研究所の**北陸デジタルものづくりセンターと連携**し、デジタルものづくり分野における共同研究をスタート
- **SDGs関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発**を支援し、企業の稼ぐ力を向上
- **嶺南Eコースト計画**に基づくスマートエネルギーエリアを形成
- **「立地地域の将来像に関する共創会議」**で示された将来像の実現に向け、国や立地市町、電力事業者とともに取組を推進
- ICTを活用した**スマート農業**を推進
- **大規模水田園芸、大規模施設園芸**の推進により園芸産出額を拡大
- **「ふくい型林業経営モデル」**の構築による主伐・再造林を推進
- 航空レーザ計測による高精度の森林情報を共有・活用し、**林業DX**を推進
- **体験型イベント「フクモクフェス」**を開催し、県産材の利用と理解を促進
- 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を開始、**養殖生産規模の拡大**を支援
- **農遊コンシェルジュ**を育成し、農村回遊を進め、農山漁村の交流人口を拡大

○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

- DXラボと支援機関が連携し、**企業のDX推進を伴走支援**
- 学生、転職者等を対象にITスクールを開講し、企業の**IT人材を育成・確保**
- IoT・AI・5G等の先端技術の導入による企業の**業務効率化、高付加価値化**を支援
- **県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用**により県内企業の成長を支援

産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

- 県立大学に「**恐竜学部(仮称)**」を新設
- 大学と産業界等との連携により社会人の**リスキリング教育**を展開
- 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「**ふくい創生人材**」を輩出
- 園芸・林業・水産カレッジにて**次世代の農林水産業人材**を育成

日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくりま

- **ふくい結婚応援協議会**を核としたオールふくいの結婚支援
- **男性の育休取得**を当たり前に。長期間の育休を取りやすい職場環境整備を支援
- 「**ふく育**」応援団が子育て家庭と妊婦を応援。社会全体で子育てを応援する機運を醸成
- 核家族でも安心。「**ふく育タクシー**」、ふくい家事育児サポーター「**ふく育さん**」を整備
- 地域における**全天候型の遊び場**の整備を支援
- 第2子以降の負担を軽減。「**子だくさんふくいプロジェクト**」を実施
- 子どもが欲しい世帯に**日本一の不妊治療助成**を実施
- **フォスタリング機関**による里親の確保、マッチング支援、質の高い里親養育を実現
- 「**ふく育県**」を全国にPR。子育て世代の移住を促進

(3)しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになろう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る
「県民総参加」の社会をつくれます。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

- 地域のリーダーとなる若者を育成する**教育プログラムコース**を実施
- ふるさと納税活用の**クラウドファンディング**により県民活動を応援
- 県民の自信と誇りを醸成する**「ふくい最高！プロジェクト」**を実施

○課題解決へ県民アクション

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を拡げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

- **「SDGsパートナー」**の登録拡大、連携により次世代を育成
- 県内デザイナー等との協働による**「政策デザイン」**を推進
- 県と**市町協働**による課題解決策の検討やシステム標準化・共同化を推進
- **「サービス連携基盤」・「デジタル地域通貨」**を利活用し、生活DXを推進
- 外国人が**住み・働きやすい環境**を整備し、活躍を促進
- **「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」**に基づく男女共生社会の実現に向けた取組みを促進

○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

- アートキャンプなど**学生の長期滞在型キャンプ**の実施を支援
- 都市部の専門人材を呼び込む**「地方兼業」**の取組みを拡大
- 地域との交流や体験活動を促進する**「ワーケーション」**の受入を推進
- しごと・住まい・定着支援を組み合わせた**「移住応援パック」**を発信

都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

- 子育て世代への**「移住支援金」**を加算
- 福井の生活環境をPRする動画配信等を行い、**福井への移住ブーム**を創出
- **若者や子育て世代**やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓
- **移住サポーター**による情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

未来をつくる実践目標

チャレンジ 2023

(令和5年度 分野別の主要政策)

<5つの分野>

○将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行

○福井の「文化」と「デザイン」の力を活かし、政策の質を向上

学びを伸ばす (人材力)	成長を創る (産業力)	楽しみを広げる (創造力)	安心を高める (地域力)	ともに進める (総合力)
ふくい人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代の 「健康文化」創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

分野ごとの主な施策

分野	目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
学びを伸ばす (人材力)	17	89	85
成長を創る (産業力)	18	91	87
楽しみを広げる (創造力)	16	100	99
安心を高める (地域力)	16	75	72
ともに進める (総合力)	9	33	25
合計	76	388	368

	政 策		重点施策	施 策
学びを伸ばす (人材力)	1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> 学力・体力全国トップクラスの高い基礎力をもとに、子ども自身の個性を「引き出す教育」、好奇心や探究心を持って学びを「楽しむ教育」を推進 自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの個性が輝く福井の子どもを育成 		個性を引き出し、学びを楽しむ教育プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 少人数学級や習熟度別指導、ICTの活用等の推進 ふるさと教育・キャリア教育の推進、スポーツ・文化芸術活動の充実 など 	<ul style="list-style-type: none"> 個性や主体性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材の育成 一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する教育の充実 郷土を学ぶ教育の推進など、ふるさとを愛する子どもの育成 教員の働き方改革や放課後児童クラブ等の充実など、子どもの成長を社会全体で支える教育環境の整備 など
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり <ul style="list-style-type: none"> 産学官連携により、福井の産業や自然を活かした教育・研究を推進し、若者に魅力的な学びの場を創出 人生100年時代のリカレント教育を充実し、生涯活躍し続ける創造性豊かな人材を育成 		「ふくい創生人材」育成プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な大学づくりや高校等との連携強化による県内進学への促進 F A A (ふくいアカデミックアライアンス) による県内大学の連携強化 など 	<ul style="list-style-type: none"> 農や水産増養殖、古生物学の学術拠点など、新たな学部・学科の創設による若者に魅力的な大学づくり 地域でのフィールドワークや共同研究など産学官連携による地域人材の輩出 多様な人生設計を支えるリカレント教育の充実 など
	3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現 <ul style="list-style-type: none"> 女性、若者、高齢者など、性別、年齢に関わらず誰もが様々なことに挑戦できる共生社会を実現 障がい者、外国人など多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進 		みんなが主役「ワンチームふくい」プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 「共働き方改革」による新たなライフスタイルの実現、若者・シニアのチャレンジ応援 障がい者、外国人の就労や生活環境の整備 など 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも職場でもワークシェアを進め、男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現 若者同士のネットワークを拡大、面白い挑戦を「ちょい足し」応援 全世代の県民や企業等が社会貢献活動に参加しやすい環境づくり 障がい者の就労支援や外国人が住みやすい環境の整備 など
	4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援 <ul style="list-style-type: none"> 将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みを拡充 「日本一の出会い・子育て応援社会」を構築 		子だくさんふくいプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 多子世帯への経済的支援を2人目からに拡大 保育人材の確保など保育の受け皿の強化 など 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然な出会い」の環境づくりなど新たな出会いのサポート 妊娠・出産前後からの切れ目ない支援体制を強化するなど安心して出産・子育てできる環境の整備 男性の育児・家事参加の促進やシニア・学生による子育て支援など子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みづくり など
成長を創る (産業力)	5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ <ul style="list-style-type: none"> 福井の生活・文化を形づくってきた農林水産業を大切に守り、次世代に引き継いでいくとともに、その魅力を福井の発信に最大限活用 新技術の活用などにより、力強い成長産業にレベルアップ 		稼げる農林水産業創出プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> スマート技術の活用による稼げる農林水産業の実現、カレッジ等での人材育成 農林水産業と観光等の他産業を結び付けるプラットフォームの形成 など 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業の普及や大規模経営化による生産性の向上 「いちほまれ」や「ふくいそば」など福井の美味しい食のトップブランド化 観光農園の整備など新たな交流促進による農山漁村の魅力創出 県産材の需要と供給を拡大し、育てる林業から稼げる林業へ転換 養殖生産やスマート漁業の推進など水産業の成長を促進 など
	6 地域経済のイノベーション <ul style="list-style-type: none"> 地域内の経営資源が循環する「福井型エコシステム」の構築、デザインの活用等による地域経済のイノベーションを創出 新技術の活用による生産性向上や人材確保、人を幸せにする働き方改革の推進など地域経済の持続的発展を応援 		お金・人・技術の地域内循環・拡大プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 有望ベンチャーへの投資などスタートアップ企業の発掘・育成 「後継ぎベンチャー」の支援など事業創継の推進 など 	<ul style="list-style-type: none"> 起業家による創業支援など地域内で人や金を循環 デザインの力によるものづくり産地の魅力向上 和菓子店や酒蔵、伝統工芸など暮らしに根差した小さな企業の応援 AI、IoT等の新技術の活用による地域企業の生産性向上や外国人材の受入促進等による人材確保 幸せと生産性を両立する「しあわせ働き方改革」の実行 など
	7 Society5.0 時代の新産業創出 <ul style="list-style-type: none"> 高いものづくり技術を活かした成長産業への進出や新技術を活かした高付加価値産業への転換 若者や女性を惹きつける企業の誘致 		ものづくり産業の新市場挑戦プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 生産・データ利活用の拡大、人材集積を通じ、衛星ビジネスの国内拠点を形成 未来型エネルギー技術や自然に優しい新素材の開発 など 	<ul style="list-style-type: none"> 航空・宇宙、ヘルスケア産業など成長産業への進出を応援 AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出、高付加価値化 企業誘致による若者や女性を惹きつけるしごと創出 スマートエネルギーエリアの整備や研究・人材育成の拠点形成など、嶺南「E コースト」の形成 など
	8 拡大する世界市場をふくいの成長へ <ul style="list-style-type: none"> 成長する地域や分野など世界市場の動向を見極め、県内企業の新たな海外展開に向けた支援を強化 食や伝統工芸など本物の魅力を海外に売り込むなど、世界市場の拡大を本県に取込み 		世界市場チャレンジプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 県民・企業のニーズに即したミッション型海外事務所の設置 国・地域ごとのニーズに応じたプロモーションなどインバウンドの拡大 など 	<ul style="list-style-type: none"> アジア・環日本海諸国への進出や販路開拓の支援など海外ネットワークの充実・強化 福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化 オリンピックや大阪・関西万博等を活かした発信 敦賀港・福井港を活かした貿易拡大 環日本海、アジア、欧米諸国等との交流促進、国際人材育成 など

	政 策		重点施策	施 策
楽しみを広げる (創造力)	9 100年に一度のまちづくり ・北陸新幹線などの高速交通網の整備にあわせ、新幹線駅周辺のまちづくりや二次交通を整備 ・県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進		新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト ・新たな4つの新幹線駅周辺のまちづくりを市町と協働し推進 ・観光型 MaaS の構築 など	○北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進 ○新幹線駅周辺のまちづくりを市町等と協働して推進 ○二次交通の充実や地域鉄道等への支援など持続可能な地域交通ネットワークシステムの構築 ○港・空港・道路などのふくいを支える交流基盤の整備・活用の推進 ○関西との近接性を活かした「WAKASA リフレッシュエリア」の形成 など
	10 北陸新幹線開業効果を最大化 ・誘客プロモーションによるふくいブームの創出や観光地の磨き上げ、インバウンド誘客などを集中的に実行し、新幹線開業効果を最大化		観光リゾートエリア形成プロジェクト ・恐竜博物館、東尋坊、丹南伝統的工芸品産地、三方五湖、若狭湾など観光地のスケールアップ など	○観光資源の魅力向上や周遊・滞在を促進する仕掛けづくり ○ブランド力向上やデジタル情報の発信拡大などによるふくいブーム創出 ○国・地域の特徴に応じた外国人目線のインバウンド誘客 ○おもてなしの向上などリピートしにくくなる環境づくり ○DMO など地域が一体となった観光産業化の基盤づくり など
	11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略 ・Uターン支援体制を強化するなど「待ち」から「攻め」の移住政策に転換 ・交流人口の拡大や多様な福井との「関わり」から移住・定住につなげる新たな仕組みを構築		関係人口拡大プロジェクト ・県外学生等の長期滞在・地域フィールドワークの促進 ・テレワーク、ワーケーションなど新たな働き方による都市人材の呼び込み など	○県内企業と県外大学生や都市圏の地方転職希望者との接点の拡大などによるUターンの促進 ○教育機関と産業界が一体となった学生の地元定着の促進 ○学生を滞在させるキャンプの拡大や市町と連携した「微住」の促進 など
	12 文化・スポーツがふくいの活力 ・長い歴史・生活が培った文化力や芸術文化への関心の高まり、国体・障スポ等を通して高まったスポーツ熱をまちづくりや交流人口の拡大に活用 ・デザイン・アートの充実やフェスの開催など若者に魅力あるイベントを拡充し、楽しみにあふれるまちづくりを推進		文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現プロジェクト ・全国規模のスポーツ大会の誘致や参加型のスポーツイベントの企画・開催 ・音楽フェスなどにぎわいを創出するまちなかイベントの拡大 など	○千年を超える本県の歴史・文化遺産などをネットワーク化し、歴史ミュージアムふくいを発信 ○サブカルチャー・ポップカルチャーの振興など、「若者・よそ者」が集まるまちづくりの推進 ○スポーツツーリズムの推進や県内を拠点に活躍するスポーツチームの応援 など
安心を高める (地域力)	13 人生100年時代の健康ライフスタイル ・何歳になっても元気なうちは社会を“支える”役割を担うという新しい高齢者観を共有 ・人生100年を健康に過ごすための「ふくい型健幸サポートシステム」を構築し、福井発の「健康文化」を創造		ふくい発「健康文化」創造プロジェクト ・血液一滴がん検診の導入、ハイシルバークの促進など「いきがい寿命」の延長 ・「ふくい型健康リテラシープログラム」の開発 など	○フレイル予防等の促進による疾病・要介護化の徹底防止など100歳までの「健活力」の向上 ○通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動ができる環境整備 ○地域の健康づくりの担い手育成など住民サポートの強化 など
	14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉 ・医療、介護、予防、生活支援がトータルで提供される「次世代包括ケアシステム」を展開 ・誰もが住み慣れた地域で安心して医療や介護、福祉サービスを受けられる環境を整備		次世代包括ケアシステム推進プロジェクト ・東大との新たな「ジェロントロジー4.0」共同研究や「回復型」フレイル予防の導入 ・医療・介護に生活支援を融合 など	○先端技術を活用したスマート医療、ドクタープール制度、ドクターヘリの活用等による地域医療の充実・強化 ○訪問介護の提供体制の充実や医療・介護・福祉に従事する人材の確保・育成 ○8050問題や育児と介護のダブルケアなど様々な課題に対応する包括的な福祉サービスの充実強化 など
	15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ・新たな技術や有償ボランティアなどの新たな共助の仕組みを活用し、いつまでも安心して暮らすことのできる地域を構築 ・豊かな自然環境を保全するとともに、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、再生可能エネルギー導入等を推進		持続可能な次世代コミュニティ創出プロジェクト ・安心して暮らせる集落生活圏の形成、有償ボランティアの仕組みづくり ・ICTなど新技術の活用による地域の課題解決 など	○集落機能維持に対する支援やICT活用による新たな共助の仕組みづくり ○歴史的まちなみや自然景観など美しい景観の保全・形成 ○豊かな里山里海湖の保全と交流人口拡大への活用 ○再生可能エネルギー等の導入拡大や地球温暖化対策の強化、スマートエリアの整備 など
	16 防災・治安先進県ふくいの実現 ・頻発・激甚化する自然災害に対し、県土強靱化の推進や地域防災力の向上により備えを万全 ・子どもや女性、高齢者などが犯罪等に巻き込まれない安心して暮らせる社会を実現		安心の防災基盤強化プロジェクト ・大規模災害団員の確保支援や企業との連携等による防災力強化 ・治水・土砂災害対策など県土強靱化の推進 など	○県と市町の連携強化や地域の自助・共助による防災力と新技術の力の融合による災害への対応力の向上 ○インフラ老朽化対策や建設産業の担い手確保 ○子ども、女性、高齢者など県民を守る犯罪・事故対策を強化 ○県民の安全最優先の原子力政策の推進 など
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営 ・徹底現場主義に基づき、県民主役の県政を実現 ・市町とのコミュニケーション強化や価値創造型の政策立案の推進		市町協働による行政サービス向上プロジェクト ・行政システムの共同化など県・市町共通の課題をチームにより課題解決 ・市町職員の確保支援、人事交流 など	○徹底現場主義やクレドに基づく県民主役の県政、市町との協働強化 ○SDGsの推進や政策デザインの考え方にに基づく政策立案と実行 ○AI等の活用による仕事の進め方改革と人材確保・育成 ○歳入確保と歳出の合理化・重点化、健全財政運営 など
	18 広域パートナーシップの強化 ・地方間の連携強化による高速交通網の整備促進 ・広域観光の推進など、県境をつなぐインフラを活用し、人・モノ・情報の活発な交流を促進		地方連携による基盤整備・交流拡大プロジェクト ・関係自治体と一体となった高速交通網の整備促進と県境フロンティア観光の推進 など	○高速交通網の整備促進や広域観光など連携による交流拡大 ○災害や疾病などに備えた広域連携の強化 ○全国の自治体と連携した政策立案や国等への提言 など

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策1-1】 ○個性や主体性を育む探究的な学びの推進</p> <p>子どもの意欲や能力を最大限に引き出す教育や、幼児教育と小学校教育とのスムーズな接続、豊かな感性やチャレンジする力を育む文化芸術・スポーツ活動などを充実し、一人ひとりが個性を発揮し挑戦する人材を育成する。</p>	<p>確かな学力の育成</p> <p>○ ICT活用による一人ひとりの能力・特性に応じた学習の推進、地域間格差を解消するため、県と市町教育委員会が連携し、外部有識者も参画した「福井県学校教育DX推進協議会」を設置 【教育庁】</p> <p>魅力ある県立学校づくりの推進</p> <p>○ 高校生および教職員を対象としてスーパーサイエンスハイスクール指定校の成果普及と支援を行い、理系人材を育成 ・先端の研究者による実践的な指導、講演・交流、ゼミを実施し理数教育を充実するとともに生徒の研究を支援 ・データサイエンス教育の充実 【教育庁】</p> <p>幼児教育の推進</p> <p>○ 市町幼児教育アドバイザーや園内リーダーを養成・支援する研修を実施 【教育庁】</p> <p>文化芸術活動の充実</p> <p>○ 小中学校で越前荒土を使った図画工作科・美術科の授業を実施し、福井ふるさと教育フェスタおよび県ホームページにて、写真作品展を開催 【教育庁】</p> <p>○ 児童生徒の豊かな感性や音楽文化に親しむ態度を育む「県立音楽堂空席利用鑑賞」の実施 ・県立音楽堂が主催する公演の空席を小中高生に無償で提供 【交流文化部・教育庁】</p> <p>トップアスリートの養成</p> <p>○ 福井大学との連携により「合同競技体験会」や「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催し、子どもの可能性を引き出しながら、有望なジュニア選手を発掘・育成 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県学校教育DX推進協議会の実施 4回 (R4: -) ・ 講演会、ゼミの実施 5回 (R4: -) ・ 園内リーダー認定者がいる園の割合 89% (R4:89%) ・ 越前荒土を体験する児童生徒数 4,000人 (R4:2,554人) ・ 競技スポーツの全国大会での上位入賞数 (1~3位) 100件 (R4:200件)
<p>【施策1-2】 ○一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実</p> <p>誰もが主役の共生社会を目指し、子どものころから一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する人材を育成する。</p>	<p>お互いを尊重し豊かな心を育む教育の推進</p> <p>○ わくわく読書活動応援事業の実施 小学校を対象に県が選定した「推奨図書」を活用した企画への支援を行うとともに、学校図書館スーパーバイザーを派遣することにより、子どもの読書習慣の形成につなげる 【教育庁】</p> <p>たくましく健やかな体を育む教育の推進</p> <p>○ 学校でも家庭でも楽しみながら自分の運動記録を入力できるアプリ（「はびりゅうスポーツ広場」）を活用し、小学生の運動時間を増加 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館スーパーバイザー派遣校 小学校 17校 (R4: -) ・ アプリを製作し、令和6年度から運用を開始 (R4: -)

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>グローバル化に対応した教育の推進</p> <p>○ タブレット端末の活用などALTによるスピーキングテストを充実し、中学生のスピーキング力・リスニング力を向上 【教育庁】</p> <p>特別支援教育の推進</p> <p>○ 特別支援学校や行政、農業法人等による農業体験実習等を拡充（知的6校年3回以上） 【教育庁】</p> <p>いじめ・不登校対策の充実</p> <p>○ いじめ、不登校の未然防止や早期対応に向け、臨床心理士などの資格を持つ相談員の配置によるSNS等を活用した相談窓口を開設 【教育庁】</p> <p>外国人児童生徒等に対する教育環境の整備</p> <p>○ 足羽高校、武生商工高校、武生高校定時制に日常会話を補助するコミュニケーションサポーターを配置、日本語能力検定の検定料を補助 【教育庁】</p> <p>家庭環境や地域に左右されない教育環境の確保</p> <p>○ 理科実験のオンライン配信やオンデマンド動画を活用して、理科への興味・関心を高める。 ・教育総合研究所のサイエンスラボから学校では困難な実験をライブ配信 ・オンデマンド配信用の実験動画作成 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFR A1レベル以上（英検3級など）に相当する英語力を持つ中学生3年生の割合 65%（R4:86.4%） ・農業体験活動参加生徒数 200人（R4:147人） ・学校や相談機関で相談を受けている不登校生徒の割合 90%以上（R4:R5.8月公表予定） ・コミュニケーションサポーター 6人配置（R4:7人配置） ・オンデマンド配信用の新規理科実験動画を作成 10本（R4:15本）
<p>【施策1-3】</p> <p>○ ふるさとへの誇りと愛着を育む教育の推進</p> <p>地域の人々とふれあいながら、郷土について学び発信する教育や地域課題を発見・解決する教育等を推進し、ふるさとや自然を愛し、社会や地域に貢献する人材を育成する。</p>	<p>ふるさと教育の推進</p> <p>○ 地域の魅力を伝える「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」を、対象を小学5・6年生から中学生にも拡充して開催 ・聞き手に自分の考えを自分の言葉で論理的に分かりやすく伝えられるようにするための講座動画をオンラインで配信 【教育庁】</p> <p>社会や地域を担う人材の育成</p> <p>○ 普通科高校1年生を主な対象に「キャリア教育セミナー」を開催 ・理系分野および歴史分野で活躍する女性による講演を拡充 【教育庁】</p> <p>文化財の保存・継承</p> <p>○ 文化財修理現場で体験型見学会等を実施し、将来の文化財ファン獲得を目指す。 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している児童生徒の割合 66%（R4:65.4%） ・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 高校生 75.0%（R4:75.6%） ・参加人数 380人 ・一般向け180人 ・小中向け200人（R4:—）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育関係団体が公民館等と連携して実施する、SDGsの理念に沿った活動を支援することにより、団体の活性化を図り、地域住民の社会教育を推進 <p style="text-align: right;">【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動数 30件（R4:23件）
<p>【施策1-4】</p> <p>○新たな時代を見据えた教育環境の整備</p> <p>学校における働き方改革や教職員の資質・能力の向上、地域・家庭・学校の連携・協働を進めるとともに、学校の安全・安心対策を充実する。</p>	<p>学校における働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外在校等時間月80時間以上の教職員0%を継続、さらに月45時間以内、年間360時間以内の教職員の割合を増加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務改善優良校の取り組みをGKGニュースにて共有することで、管理職、教職員の意識改革、新たな挑戦への後押し ・ スクールロイヤー事業、事例集の活用を促進し、トラブルの早期解決 ・ 外部人材（学校運営支援員、部活動指導員）の効率的な活用を促進 ・ 部活動顧問の遅出勤務など、個々の働き方に応じた勤務時間見直しを奨励 ・ 長時間勤務者には、月途中で管理職が面談を行って業務を見直し・平準化 ・ 小学校高学年における教科担任制の拡大 ・ DXの推進 <p style="text-align: right;">【教育庁】</p> <p>教職員の資質・能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職の魅力発信や採用試験の見直しなどにより優れた教職員を確保するとともに、教員研修を充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職の魅力の動画発信や授業名人の授業を大学生へ公開 ・ 教員採用選考試験に新制度を導入することで、優秀かつ多様な人材を確保し、現場のニーズに対応（R5～講師5年以上経験者第1次選考免除、大学3年時第1次選考、第1次選考における東京会場設置） ・ 大学と連携した研修実施や現場支援、教育総合研究所のICT教育サポートセンターを中心にICT活用に関する研修実施や現場支援 <p style="text-align: right;">【教育庁】</p> <p>家庭教育支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県PTA連合会と連携し、効果的な家庭教育を支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親学びプログラム集の項目追加と活用 ・ 県内企業と連携し、企業に向いて講座を実施 <p style="text-align: right;">【教育庁】</p> <p>安全・安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時代に即した学習環境を整えるため、県立学校の長寿命化や機能向上を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模改修工事、空調設備の更新、バリアフリー化など <p style="text-align: right;">【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外在校等時間月80時間以上の教職員の割合 0%（R4:0.6%（R4.4～R5.3）） ・ 志願者倍率 3.5倍（R4:3.4倍） ・ 保護者等対象講座の開催回数 5回（R4:3回）
<p>【施策1-5】</p> <p>○私立学校の振興</p> <p>私立学校の特色ある教育を支援し、福井の将来を担う人材を育成する。</p>	<p>私立高校や専門学校などの特色ある教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私立高校の魅力ある学校づくりや学業・スポーツ文化活動、地元定着を促進する取り組みを支援 <p style="text-align: right;">【総務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校卒業生県内定着率 47%（R4:42.4%）

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策2-1】 ○若者に魅力的な大学づくり</p> <p>ふくいアカデミックアライアンス (FAA) と連携し、若者のニーズや地域・社会の要請に応えた魅力ある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・学科の創設等により、県内外から学生を呼び込む。</p>	<p>新学部・学科の創設</p> <p>○ 県立大学において、次世代の地域の担い手を養成する新学部の開設に向け、外部有識者による検討会議を開催 【総務部】</p> <p>世界的な学術研究拠点の創出</p> <p>○ 恐竜などの古生物学を中心に地質や古気候学なども取り入れた「恐竜学部 (仮称)」 (R7.4) を県立大学に開設するため、施設整備等を実施 【総務部】</p> <p>県立大学にシンクタンク機能を整備</p> <p>○ 持続可能な地域社会の形成を支援するため、自治体の政策立案・計画策定や産業界が抱える課題解決、地域資源の発掘など実践的調査・研究、提言を実施 【総務部】</p> <p>若者に魅力ある学びの場の創出</p> <p>○ 県内大学の個性や魅力を向上するため、各大学の学生教育や地域貢献活動等を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな取組み例 <ul style="list-style-type: none"> ① 福井高専：ビジネスプランコンテストを開催し、優れたアイデアを提案した学生の起業を支援 ② 福井大学：ビッグデータをビジネス利用できる人材育成のため、データサイエンス教育を開始 ③ 福井工大：地元企業（特に県内化学系企業）の大卒技術者を対象に、会社の実務に直結するリカレント講義・実習の開講 【総務部】 <p>留学生の受入れ・定着の促進</p> <p>○ 外国人留学生と県内企業とのマッチングの場の提供や、留学生を雇用する企業に対する採用経費の支援により、留学生の県内定着を促進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学部開設に向けた有識者会議の開催 2回 (R4: 1回) ・ 恐竜学部 (仮称) の開設 (R7.4) に向け、4月に実施設計に着手 ・ 県外大学と連携し、共同研究を実施 ・ 各大学の魅力向上事業実施件数 48件 (R4: 48件) ・ 留学生の県内就職者数 30人 (R4: 18人)
<p>【施策2-2】 ○産学官連携による地域人材の輩出</p> <p>学生が企業・自治体等の現場における課題を学ぶ実践的な教育や企業実習、共同研究を推進し、福井を支える産業人材を育成する。</p>	<p>県内大学等の連携強化</p> <p>○ 県内高校から県内大学等への進学率を高めるため、県内高校生を対象とした進学強化策を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Fスクエア等において予備校講師による県内大学向け入試対策講座を開催 ・ FAA参加の大学・短大が合同で県内高校へ出向き、「模擬授業」や「学部・学科の紹介」などを行う出張講義を開催 【総務部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内高校卒業生の県内大学進学率 39.2% (R3年度卒34.3%)

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>現場の学びを通じた実践力の強化</p> <p>○ 地元の課題に適切に対応し得る人材を輩出するため、地元企業・市町・県と協働したPBL（※）・共同研究を実施 ※Project-Based Learning（地域や企業の課題解決に取り組む授業・ゼミ・課外活動） ・R5実施計画：約100件（内訳） 県内企業等：約65件 市町：約25件 県・学校：約10件 【総務部】</p> <p>大学連携センター「Fスクエア」の充実</p> <p>○ Fスクエアを発展的に継続し、県内大学における教養科目の共同化を促進するため、大学連携講義を拡大して実施 【総務部】</p> <p>地域産業を担う人材の育成</p> <p>○ 若者等をターゲットに、産地企業での技能習得に加え、魅力ある商品づくり、デザインや経営的な視点等を総合的に学ぶ「職人塾」を開催するとともに、職人塾修了生等を対象とした、キャリアアップのためのセミナー「伝統工芸職人大学」やコンペ方式の公募展を新たに開催し、若手職人の積極的な自己プロモーションを促進 【産業労働部】</p> <p>共同研究の充実</p> <p>○ ふくいオープンイノベーション推進機構のネットワークを強化し、大学、企業等との共同研究や新分野展開を支援するほか、プロフェッショナル人材総合戦略拠点と金融機関との連携を強化することにより、県内企業の人材ニーズ発掘を強化し、県内企業の副業・兼業人材の受入れを促進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL、学生が参加する共同研究実施件数 100件（R4:101件） ・Fスクエアにおける大学連携講義40科目（R4:43科目） ・職人塾修了生の産地での就業率90%（R4:92%） ・プロフェッショナル人材の成約件数95件（R4:74件）
<p>【施策2-3】 ○多様なライフコースを支える学びの充実</p> <p>多様な生き方・働き方が可能となるよう、社会人を対象としたリカレント教育を充実し、生涯活躍し続けるイノベティブな人材を育成する。</p>	<p>リカレント教育の充実</p> <p>○ 大学連携センター等において、地元企業の人材ニーズに応じた社会人も受講可能なプログラムを県内大学が連携して実施 【総務部】</p> <p>○ 従業員の学位や資格取得によるキャリアアップを推進する県内中小企業等を支援 【産業労働部】</p> <p>生涯学習の推進</p> <p>○ 嶺南地域を含め全ての県民が生涯学習センターまたは若狭図書学習センターから同時配信する講座を双方で受講できる環境、およびオンラインで配信し自宅でも受講できる環境を整備 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学連携センター等における社会人受講者数 150人（R4:224人） ・キャリアアップに係る支援制度を新たに設けた企業数（累計） 150社（R4:128社） ・オンライン配信する講座数 6講座（R4:3講座）

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策3-1】 ○男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現</p> <p>家事や育児などで女性の負担が大きい本県の社会構造を転換することにより、男女が性別に関わりなく多様な活躍ができる真の「男女共生社会」を実現する。</p>	<p>「共家事（トモカジ）」の促進</p> <p>○県内量販店等と協働し「共家事」促進キャンペーン（11月）や新婚世帯を対象とした普及講座、男性向け料理教室を実施し、夫婦・家族と一緒に家事を楽しむ「共家事」を促進 【未来創造部】</p> <p>働く女性の活躍支援</p> <p>○県内企業の女性の管理職登用を促進するため、「女性活躍推進企業」の登録を拡大するとともに、「女性活躍推進コンシェルジュ」等による企業の女性管理職登用を支援 【未来創造部】</p> <p>女性のキャリアアップ支援</p> <p>○お茶の水女子大学と協働による「女性のためのキャリアアップ研修事業」を実施し、県内企業の女性管理職・リーダー人材を育成 【未来創造部】</p> <p>女性が福井で多様な夢を実現できる環境づくり</p> <p>○趣味や特技を活かした地域おこしや社会貢献、起業を目指すなど、女性の夢へのチャレンジを応援 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共家事促進店舗数 200店舗（R4:183店舗） ・女性活躍推進企業登録数 360社（R4:339社） ・研修受講者総数 300人（R4:301人） うち管理職育成コース 20人（R4:21人） うちリーダーコース 40人（R4:47人） ・チャレンジプランに対する支援件数 8件（R4:8件）
<p>【施策3-2】 ○若者・シニアのチャレンジ応援</p> <p>若者の自由な発想や活動の多様性を広げることにより若者が自らの個性を活かすとともに、シニアの経験やスキルを活かす活躍の場を拡大し、全ての世代がいきいきと暮らし、地域に貢献する社会を構築する。</p>	<p>若者の交流拡大</p> <p>○県内各地で若者同士の「ツナガリづくりイベント」を開催するとともに、若者を対象にした「若者チャレンジ相談室」を開設 【未来創造部】</p> <p>若者の主体的な活動を応援</p> <p>○大学や企業と連携した若者への教育プログラムコース「エキセントリック・カレッジふくい」を提供し、地域のリーダーとなる人材を育成 【未来創造部】</p> <p>ふるさと納税を活用したチャレンジ応援</p> <p>○ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより、県内事業者等の課題解決を支援 【交流文化部】</p> <p>社会参加を通じた「生涯活躍」の推進</p> <p>○高齢者の団体が行う、地域貢献や健康づくり等に資する新たな団体の立ち上げや、多世代間交流や新幹線開業おもてなし活動の費用等に対して助成し、高齢者の社会参加を促進 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者 220人（R4:208人） ・教育プログラムコースの受講者 25人（R4:25人） ・クラウドファンディング実施件数 20件（R4:20件） ・支援団体数（累計） 100団体（R4:67団体）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>シニア人材活躍支援センターによる就業促進</p> <p>○ シニア人材活躍支援センターにおいて、企業訪問や求人開拓等の機能を強化し、専門的な技術や経験を有するシニア人材と企業とのマッチングを促進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> シニア人材活躍支援センターを通じた高齢者の就職人数 90人（R4:81人）
<p>【施策3-3】</p> <p>○社会貢献活動の参加拡大</p> <p>すべての世代の県民、企業、団体等が、もっと気軽に楽しみながら社会貢献活動ができるよう、参加しやすい環境づくりと活動のモチベーション向上を推進する。</p>	<p>社会貢献活動に参加しやすい環境づくり</p> <p>○ 社会貢献活動を身近に感じる多様な情報発信を行うとともに、若者がやってみたいと感じる社会貢献活動の企画作りを支援 【未来創造部】</p> <p>社会貢献活動の活性化や有償性導入による参加者層の拡大</p> <p>○ 地域課題の解決に資するため、NPO法人や地域団体が新たな地域貢献活動にチャレンジする取組みを資金面で応援 【未来創造部】</p> <p>災害ボランティア活動の推進</p> <p>○ 災害ボランティアセンターの設置・運営に携わる地域の各種団体が、災害時に必要な知識の習得のための研修の機会を創出 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動企画づくり支援 10件（R4:ー） NPO等への支援件数 6件（R4:6件） 災害ボランティア研修の実施 4件（R4:ー）
<p>【施策3-4】</p> <p>○多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進</p> <p>県民の障がい者への理解を深めるとともに、障がい者が更に生き生きと働き、生活できる地域にする。</p>	<p>県民の共生社会への意識の醸成</p> <p>○ 障がい者自身による出前講座や、SNSやパンフレットを活用した普及啓発等により、県民が日常生活の中で共生社会について考える機会を増やすとともに、共生社会シンボルマークを施設のカーポート等のバリアフリー設備に掲示し、多様な価値観を認め合う豊かな社会の実現を図る 【健康福祉部】</p> <p>障がい者の就労支援</p> <p>○ 付加価値やデザイン性の高い新商品の開発や、WEBサイトの事業所情報の拡充、県内外におけるプチフクション！フェスの開催等により就労支援事業所に関する情報発信を行い、障がい者就労に対する県民の理解や関心を深め、一般企業等からの受注増につなげる 【健康福祉部】</p> <p>○ 農業分野での障がい者の就労を支援し、障がい者の職域拡大を図るとともに、農業の担い手不足の解消につなげるため、新規参入のためのコンテスト開催や農福連携商談会、交流会の開催等により福祉サイドと農業サイドの交流や環境整備を行い、農福連携の促進を図る 【健康福祉部・農林水産部】</p> <p>○ 障がい者雇用推進員の配置や、インターンシップ等の実施により、障がい者の就労を支援するとともに、特例子会社設立に関するアンケートやセミナーを実施し、障がい者の職業的自立と雇用の安定を図る 【産業労働部】</p> <p>○ 特別支援学校や行政、農業法人等による農業体験実習等を拡充（知的6校年3回以上）※再掲（施策1-2） 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> カーポートパーキング箇所数 民間20箇所（R4:7箇所） 新商品開発 3商品（R4:3商品） 障がい者就労施設と農業法人等のマッチング 20件（R4:5件） 障がい者雇用率 2.49%（R4:2.48%） 農業体験活動参加生徒数 200人（R4:147人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>障がい者スポーツ・アートの推進</p> <p>○ 障がい者の芸術文化活動に対する理解と関心を深めてもらうため、展覧会における優秀な作品を表彰し、県有施設に展示するとともに、障がい者芸術文化支援センターを活用し、障がい者の芸術作品の普及啓発や相談支援、人材育成等のほか、障がい者アートを活用した商品の開発を行う 【健康福祉部】</p> <p>○ 障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむ機会を創出するため、パラスポーツデーやeスポーツを通じた交流のほか、障がい者トップアスリートによる小学校への出前講座を開催 【交流文化部】</p> <p>外国人が安心して快適に暮らし、働くことができる環境の構築</p> <p>○ 外国人コミュニティリーダーによる地域住民との橋渡しや生活に必要な情報の提供、日本語ボランティア講座の開催、やさしい日本語の普及など外国人が暮らしやすい環境づくりを整備するとともに、外国人地域おこし協力隊の配置や多文化共生の機運醸成を推進 【産業労働部】</p> <p>○ 足羽高校、武生工商高校、武生高校定時制に日常会話を補助するコミュニケーションサポーターを配置、日本語能力検定の検定料補助 ※再掲（施策1-2） 【教育庁】</p> <p>外国人材の活躍促進</p> <p>○ 海外の人材育成機関等の協力のもと、福井県の専門クラスを設置し高度外国人材等を養成・受け入れる県内企業を支援 【産業労働部】</p> <p>人権意識の啓発</p> <p>○ 県民の人権意識を高めるため、人権啓発フェスティバルなどの各種イベントや研修会を開催 【健康福祉部】</p> <p>○ 性的マイノリティの不利益を軽減するとともに、性的マイノリティへの県民の理解を促すためパートナーシップ宣誓制度を導入 【健康福祉部】</p> <p>人と動物が幸せに暮らす社会の実現</p> <p>○ 動物に好意を抱く人もそうでない人も、県民全体が動物と楽しく幸せに暮らせるよう、関係者との協議や各種広報媒体を通じ環境づくりを推進 【健康福祉部】</p> <p>○ 災害時におけるペットとの同行避難の重要性について県民に周知するとともに、同行避難者の受入態勢の整備を推進 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発 5商品（R4:－） ・ パラスポーツデー参加者数 700人（R4:642人） ・ 外国人コミュニティリーダーの設置人数（累計） 70人（R4:66人） ・ コミュニケーションサポーター 6人配置（R4:7人配置） ・ 海外に福井県の専門クラスを設置 ・ 人権フェスティバルの参加者数 800人（R4:1,041人(オンライン)） ・ パートナーシップ宣誓制度導入 ・ 苦情件数 560件（R4:587件） ・ 同行避難に関する研修会の開催 3回（R4:－）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策3-5】</p> <p>○認知症の人やがん患者が自分らしい生活を送れる社会の実現</p> <p>県民一人一人が認知症に関する正しい知識を持ち、理解を深めることで、認知症の人が安心して自分らしく暮らせる。</p>	<p>認知症フレンドリー社会の実現</p> <p>○ 企業向けに策定した認知症の方への対応ガイドライン「認知症フレンドリープログラム」を企業でのサポーター養成講座等で活用するとともに、認知症本人が地域で活躍できるよう企業との連携により社会参加の場を創出</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>認知症サポーターの養成促進</p> <p>○ 認知症サポーターや地域の企業等の協力により、認知症の人や家族を地域で支える支援チーム（チームオレンジ）の立上げを支援するとともに、その取組みを県内市町に周知し、全県展開を促進</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>がんに関する正しい知識の普及</p> <p>○ 出前講座や子宮頸がん検診の普及講座を実施し、がん検診の必要性を周知</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>がん患者の社会活動を応援</p> <p>○ 5つのがん診療連携拠点病院の診療科やがん相談室および県が開催する講演会等を通じて、生殖機能温存治療や治療費の助成制度を周知し、出産を希望する患者の精神的、経済的負担を軽減</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな社会参加の場の創出（累計） 5箇所（R4: 3箇所） ・ チームオレンジの設置市町数（累計） 6市町（R4: 3市町） ・ 子宮頸がん検診普及講座実施回数 8回（R4: 6回） ・ 出前講座実施回数 3回（R4: 1回）

政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策4-1】 ○若者の出会いと結婚応援</p> <p>8割近い県民が結婚を望んでいることから、日本一の結婚応援政策を次のステージに引き上げ、特に若い世代が求める「自然な出会い」の環境づくりを進める。</p>	<p>オールふくい体制による新たな出会い応援</p> <p>○ 県と市町からなるふくい結婚応援協議会における広域的な婚活イベント実施や、ふく恋登録者と民間結婚相談所等の登録者とのマッチングに加え、地域のつながりを活かした地域の縁結びさんや結婚相談員との連携などにより、出会いの機会を拡大し、オール福井での結婚支援を実施 【未来創造部】</p> <p>若い世代のニーズに合った婚活サポートの充実</p> <p>○ 「ふくい婚活サポートセンター」における、AIを活用したマッチングシステムの運用や趣味をテーマにしたより自然な出会いに近いイベント開催など若い世代のニーズにあった婚活サービスを提供 【未来創造部】</p> <p>自然な出会いの環境づくり</p> <p>○ 県・市町やふくい結婚応援企業に配置する職場の縁結びさんによる交流イベントの開催や、若者が参加する県内のサークル活動への支援などにより、若者の自然な出会いの機会を創出 【未来創造部】</p> <p>結婚観・家族観の醸成</p> <p>○ 高校生や大学生が結婚や子育てについて具体的にイメージできるようなライフデザインセミナーを開催することにより、若者の結婚・子育てに対する意識を醸成 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻数 170件（R4:135件） ・ マッチングシステム登録者数 1,400人（R4:1,359人） ・ 若手社員の交流人員 500人（R4:481人） ・ ライフデザイン講座受講者数 160人（R4:161人）
<p>【施策4-2】 ○安心して出産・子育てできる環境の整備</p> <p>様々な子育て世帯へのきめ細やかな支援を市町とともにを行い、日本一の子育て環境をレベルアップ。子どもを望む家庭が望むように出産・子育てできる環境をつくる。</p>	<p>仕事と妊娠・出産の両立支援の推進</p> <p>○ 共働き・核家族での子育てや不妊治療と仕事を両立できる柔軟な働き方について、企業の取組みを促進するため、経営者の意識啓発、推進企業への奨励金支給を実施 【健康福祉部】</p> <p>不妊検査・治療への支援</p> <p>○ 不妊検査や一般不妊治療費、特定不妊治療費、また不育症検査費について助成し、子どもを持つことを希望する夫婦の経済的負担を軽減 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親の育児休業取得率 30%（R4:20.3%）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度化する母子保健のニーズに対応するため、母子保健に精通した保健師OGをスーパーバイザーとして健康福祉センターに配置し、市町の困難事例への対応支援や幼児健康診査等の技術支援を行うことにより、市町の母子保健事業への支援を強化 【健康福祉部】 ○ 妊娠期から出産・子育てまで、身近な伴走型の相談支援と経済的支援を一体的に実施し、すべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整備 【健康福祉部】 <p>2人目からの経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2子の保育料無償化の所得制限撤廃に向け、市町等との協議を実施するとともに、第2子以降の一時預かり利用料等の無償化を全県的に展開 【健康福祉部】 <p>3人目からの支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが3人以上の世帯に対し、子どもが2人以下の世帯よりも手厚い優待サービスを提供する「ふく育プレミアム・パスポート」を発行 【健康福祉部】 <p>在宅育児への応援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特に子育ての負担が大きい乳幼児を在宅で育児している家庭への手当を支給 【健康福祉部】 <p>子ども医療費助成による経済的負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県の子ども医療費助成を中学3年生まで対象とし、市町による高校生までの助成拡充など地域のニーズに応じた独自の子育て支援の充実を促進 【健康福祉部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施市町数 17市町（R4:17市町） ・ 保育料や一時預かりサービス無償化実施市町数 17市町（R4:17市町） ・ 「ふく育」応援団（優待・割引型）登録店舗数 1,900箇所（R4:1,830箇所） ・ 実施市町数 17市町（R4:17市町） ・ 中学生までの医療費助成を実施する市町数 17市町（R4:17市町）
<p>【施策4-3】 ○待機児童ゼロの実現</p> <p>必要な人が必要な時に保育所等を利用できる受け皿整備を進め、待機児童ゼロを実現・継続</p>	<p>子育て・保育の受け皿整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 低年齢児（0歳児、1、2歳児）担当保育士を配置基準を超えて配置（0歳児は3:1を2:1に、1～2歳児は6:1を5:1に）する場合の人員費を支援 【健康福祉部】 ○ 保育所等において、保護者が使用済みおむつを持ち帰らずに済むよう、保育所等で処分するために必要な経費を支援 【健康福祉部】 <p>保育人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士等が働き続けられる環境を確保するため、保育士等の処遇改善、保育現場の負担軽減、保育士の確保を総合的に進め、質の高い保育現場を実現 【健康福祉部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低年齢児担当保育士加配園数 80園（R4:58園） ・ 持ち帰り廃止施設割合 75%（R4:51%） ・ 保育補助者、周辺業務支援者配置園数 60園（R4:51園）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>保育の仕事の魅力向上</p> <p>○ 保育士を目指す人や保育士に復帰しようとする人の増加を図るため、指定保育士養成施設と連携し、保育現場の魅力を発信するとともに、中・高校生や保護者等が保育について知り、体験できる機会を創出</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育体験等を行った人数 100人（R4：－）
<p>【施策4-4】</p> <p>○社会全体で子育てを応援する仕組みづくり</p> <p>男性の育児・家事参加をさらに進めるとともに、地域の高齢者や学生等の子育て参加など、子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みをつくる。</p>	<p>育児での男性活躍社会</p> <p>○ 子どもとお出かけしやすい環境を整えるため、男性用トイレ等へのおむつ交換台等の設置費用を支援し、「ベビサポトイレ」の整備を促進</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>企業による子育て世帯の支援</p> <p>○ 従業員が仕事と子育てを両立しやすいよう、企業トップによる職場環境づくりを進めるため、ふく育応援団「従業員応援企業」への登録を促進</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>子育てにやさしい地域づくり</p> <p>○ 社会全体で子育てを応援する機運を醸成するため、「ふく育」応援団参加店による子育て世帯への優待サービスを提供するとともに、子育て応援サイト「ふく育」により子どもや子育てに関する情報を一元的に発信</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>○ ふくい家事育児サポーター「ふく育さん」と利用者をマッチングするプラットフォームを育成し、在宅家事育児サービスの利用しやすい環境を整備</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>○ 通院、買い物、子どものみの送迎など、妊婦や子育て世帯の外出をサポートする「ふく育タクシー」の運行を支援</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>困難な環境にある子どもへの支援</p> <p>○ 社会的養育が必要な児童がより家庭的な環境の中で養育されるよう、里親のリクルートや研修、相談対応等を包括的に行うフォスターリング機関により、受け皿となる里親を増やし、質の高い里親養育を推進</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>ひとり親家庭等が自立して暮らすことができる環境づくり</p> <p>○ ひとり親家庭の、子育てと就業との両立や経済的な自立を促進するため、キャリア形成の重要性の気づきや支援制度につなげるセミナー等を開催</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p> <p>児童の健全育成</p> <p>○ 子どもたちや親子が天候にかかわらず地域で安心して過ごせるよう、補助要件を緩和したうえで全天候型の遊び場の整備を推進</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置箇所数 100箇所（R4:24箇所） ・ ふく育応援団「従業員応援企業」登録数 150箇所（R4:100箇所） ・ 「ふく育」応援団（優待・割引型）登録店舗数 1,900箇所（R4:1,830箇所） ・ 「ふく育さん」登録者数 25人（R4:0人） ・ 「ふく育タクシー」運行事業者数 22事業者（R4:1事業者） ・ 里親委託率 22.0%（R4:21.7%） ・ セミナー参加者 200人（R4：－） ・ 整備した市町数 5市町（R4:0市町）

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策5-1】 〇夢のある次世代の農業を推進</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">若者や地域を支える人材が、ICT等を活用したスマート技術の活用により、稼げる農林水産業を実現する。</p>	<p>水田経営の大規模法人の育成 〇 実演会等を開催し、自動操舵システムやドローン等によるスマート農業を推進 【農林水産部】</p> <p>大規模水田園芸の推進 〇 ネギ・ブロッコリー等機械化体系モデルを推進し、大規模水田園芸を拡大 【農林水産部】</p> <p>大規模施設園芸の全県展開 〇 実証データに基づき、温度、湿度、CO2を自動で適正管理するスマート園芸（キュウリの夏越し栽培、イチゴの11～5月出荷など）を全県展開 【農林水産部】</p> <p>儲かる畜産経営の展開 〇 畜産物生産の拡大に向け、作業の効率化および省力化を図るスマート畜産を推進 【農林水産部】</p> <p>植物工場の拡大 〇 電気料金が安価で、関西・中京圏まで近距離という嶺南地域を中心に、最先端技術を導入した植物工場を誘致 【農林水産部】</p> <p>次世代の農業を担う人材育成 <農業> 〇 「ふくい園芸カレッジ」や「越前若狭田んぼ道場」に加え、果樹研修圃場を整備して、新規就農・就業者を育成 【農林水産部】</p> <p>森林経営・管理を担う人材育成 <林業> 〇 ふくい林業カレッジにおける林業事業体で活躍できる新規林業就業者の育成や林業PR動画のSNS配信等による人材の確保を図るとともに、自伐林家等の活動に対し支援し山村で活動する山の担い手拡大と地域活性化を推進 【農林水産部】</p> <p>ふくいの海を担う人材育成 <水産> 〇 定着支援資金により扶養者等を支援、ふくい水産カレッジの漁船漁業コース等や新規養殖就業者に対する設備投資への補助により独立就業を支援し、新規就業者を確保 【農林水産部】</p> <p>生産・販売の拡大を目指した試験研究の推進 〇 安定良食味な水稲早生品種や病気に強いミディトマトの開発やキュウリ栽培の自動環境制御技術の現地導入の実証、ならびに有機無農薬栽培の省力化に資する水田除草機の普及を推進 【農林水産部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業導入面積 6,000ha (R4:5,060ha) ・ 水田を活用した園芸面積 600ha (R4:540ha) ・ 大規模施設園芸数 (累計) 24箇所 (R4:22箇所) ・ スマート畜産導入農家数 38戸 (R4:31戸) ・ 立地決定企業数 1企業 (R4:1企業) ・ 新規就農者数 (農業) 120人 (R4:121人) ・ 新規林業就業者数 (林業) 20人 (R4:26人) 県内の自伐林家数 (自伐型林業) 33人 (R4:28人) ・ 新規漁業就業者数 (水産) 21人 (R4:25人) 内新規養殖就業者 1人 新規養殖参入拡大企業 1社 ・ 品種登録出願 (R6予定) に向けた品目の選定 2品目 (R4:2品目)

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策5-2】 ○「ふくいのおいし」のトップブランド化</p> <p>米やそば、地酒、トマト、かに、地魚など、美味しい「ふくいのおいし」の認知度を高めることにより、販売額を拡大する。</p>	<p>いちほまれを全国トップのブランドに確立</p> <p>○ 新米販売開始時期に合わせたCM放映や高価格販売店舗数の拡大により、いちほまれの販売量を拡大するとともに、いちほまれ専用CEを整備し、生産体制も強化 【農林水産部】</p> <p>「ふくいそば」のブランド確立</p> <p>○ 新幹線開業に向けたそばをメインとする全国規模のイベントの開催やふくいそばのブランディングなどにより、本県のそばの魅力を発信 【農林水産部】</p> <p>地魚の戦略的販売</p> <p>○ ふくいフィッシュソリューション（魚種ごとの課題解決）により販売を促進 若狭ぐじ：京都市場で試食会開催、ふくい甘えび：首都圏へ新幹線輸送 若狭まはた：県内イベントで情報発信 越前がれい：新しい食べ方（生食）の定着化 【農林水産部】</p> <p>ふくいオリジナル地酒の商品化</p> <p>○ 酒米生産および酒醸造の品質向上と併せ、飲食店等での活用促進、県内外でのPRへの支援等により販売量を拡大 【農林水産部】</p> <p>ふくいの畜産ブランドの確立</p> <p>○ 若狭牛と福地鶏の給餌技術の実証と子牛・ヒナの導入支援により、飼養頭数を拡大 【農林水産部】</p> <p>美味しい「ふくいのおいし」の認知度向上で販売拡大</p> <p>○ 首都圏のスーパーマーケットでの福井フェア開催店舗を拡大（3系列→5系列）し、新たに商談を進めるとともに、全国飲食チェーン店とのタイアップや首都圏飲食店フェア、新たに制作した動画でのプロモーションにより、県産農林水産物や加工品の販売を拡大 【農林水産部】</p> <p>「ふくいのおいし」の輸出拡大</p> <p>○ 営業代行やオンライン商談会などにより、県内事業者の海外販路開拓の機会を確保するとともに、米について、新品種米の実証栽培の拡大、初輸出を行うとともに、香港・シンガポールでの営業と併せたレセプションや即売・商談会等の開催を進め、アジアへの販路を拡大 【農林水産部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いちほまれの販売量 8,000t（R4:7,000t） ・ ブランディング検討会の開催 7回（R4:7回） ・ 新規取扱店舗数 30店舗（R4:48店舗） ・ R5年販売量（R4年醸造量） 4合瓶換算で9万本（R4:9万本） ・ 若狭牛・福地鶏の飼養頭数 6,200頭（R4:6,132頭） ・ 代表食材5品目の産出額 22.7億円（R4:21.1億円） ・ アジアへの農林水産物・食品輸出額 20億円（R4:18.8億円）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策5-3】</p> <p>○農山漁村の魅力創出・交流人口の拡大</p> <p>直売所などを中心に、交流活動を拡大し、女性や高齢者を含めみんなが活躍することにより、稼げる農山漁村を実現する。</p>	<p>農山漁村を満喫する「農遊地域」づくりで交流人口を倍増</p> <p>○「農遊コンシェルジュ」の育成や「農遊スタンプラリー」の実施により、大型直売所を中心とした農村回遊を促進し、農山漁村の交流人口を拡大 【農林水産部】</p> <p>「知る」、「つくる」、「買う」による食育・地産地消の推進</p> <p>○農産物直売所間の相互輸送販売や、直売所・スーパー等でのキャンペーンの実施等により、地場産食材の購入を促進 【農林水産部】</p> <p>小規模農家等の生産意欲の向上とチャレンジ活動を応援</p> <p>○既存産地を下支えしている小さな農家や女性グループ、集落営農組織の新たなチャレンジに対して「ちょい足し」支援 【農林水産部】</p> <p>農業で魅力のある田園風景を維持</p> <p>○県内各地域の農村ならではの風景を収集、県のホームページやSNS等で県民にPRし、農村の保全活動を活性化 【農林水産部】</p> <p>鳥獣害に負けない体制づくりの強化</p> <p>○県・市町・外部専門家の連携のもと、現場の課題を把握し、獣種ごとの効果的な対策を講ずることにより被害を軽減するモデルづくり 【農林水産部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農山漁村の交流人口数 170万人（R4:8月集計予定） 直売所販売額(売上3千万円以上の店舗) 48億円（R4:46億円） 既存産地の新たなチャレンジ活動（累計） 49事業（R4:29事業） 巡回展 4回（R4:6回） モデル地区 4箇所（R4:1）
<p>【施策5-4】</p> <p>○県産材の需要・供給の拡大と林業の活性化</p> <p>利用可能な森林資源が増えている中、県産材の需要と供給を拡大し、林業の活性化を図る。</p>	<p>間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進</p> <p>○ふくい型林業経営モデルのPR林を設置するとともに、モデル構築に必要な検証を行い、効率的な主伐・再造林を推進 【農林水産部】</p> <p>新たな手法の導入による施業集約化の促進</p> <p>○コミュニティ林業の拡大による施業地の集約化に加え、航空レーザ計測により得られた森林情報をクラウドシステムで共有・活用し、施業地確保の省力化を推進 【農林水産部】</p> <p>森林経営・管理を担う人材育成</p> <p>○ふくい林業カレッジにおける林業事業体で活躍できる新規林業就業者の育成や林業PR動画のSNS配信等による人材の確保を図るとともに、自伐林家等の活動に対し支援し山村で活動する山の担い手拡大と地域活性化を推進 ※再掲（施策5-1） 【農林水産部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふくい型林業経営モデルPR林の設定 10箇所（R4:1） コミュニティ林業実施集落数（累計） 271集落（R4:241集落） 航空レーザ計測面積（累計） 148,466ha（R4:126,310ha） 新規林業就業者数（林業） 20人（R4:26人） 県内の自伐林家数（自伐型林業） 33人（R4:28人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>県産材の利用拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都市圏における大規模展示会への出展や、台湾企業(代理店)との連携による展示会・商談会に加え、インドネシア企業の招聘による商談会を開催し、県産材の需要を拡大 【農林水産部】 ○ 県民が木に触れ合うことを通じて、木材利用の理解と関心を深める体験型イベント「フクモクフェス」を開催し、県産材の利用を促進 【農林水産部】 <p>森林の多様な活用による山村の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林を観光や保養のフィールドとして活用するため、県内各地にトレイルイベントや森林体験など森林を活用した取組を拡大 【農林水産部】 <p>緑と花の県民運動を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新幹線駅周辺に地域の特色を取り入れたデザイン花壇を設置するとともに、駅や観光地周辺での花づくりの実践研修の他、県内各地で花の体験講座や技術研修を開催し、花づくりに取り組む人材を育成 【農林水産部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県産材製品の県外・海外への販売額 1.8億円（R4:1.7億円） ・ 来場者数 1.5万人（R4:—） ・ 新たな森林活用に取り組む団体 3団体（R4:2団体） ・ 花の景観づくり研修 28回（R4:29回）
<p>【施策5-5】 ○ふくいの水産業のステップアップ</p> <p>新技術を活かした養殖業による生産拡大と地魚の戦略的な販売促進により、豊かな浜のくらしを実現する。</p>	<p>養殖業の拡大と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マハタの安定出荷やトラウトサーモンの養殖施設拡大の支援により、生産を拡大するとともに、嶺南から嶺北に新鮮な状態で提供できる流通体制を整備 【農林水産部】 <p>漁船漁業の効率化と地魚の戦略的販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふくいフィッシュソリューション（魚種ごとの課題解決）により販売を促進 若狭ぐじ：京都市場で試食会開催、ふくい甘えび：首都圏へ新幹線輸送 若狭まはた：県内イベントで情報発信 越前がれい：新しい食べ方（生食）の定着化 ※再掲（施策5-2） 【農林水産部】 <p>ふくいの海を担う人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定着支援資金により扶養者等を支援、ふくい水産カレッジの漁船漁業コース等や新規養殖業者に対する設備投資への補助により独立就業を支援し、新規業者を確保 ※再掲（施策5-1） 【農林水産部】 <p>漁村の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漁獲量増大に向け、若狭地域への誘客の目玉とするため、三方五湖において天然ウナギの放流調査を実施 【農林水産部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗出荷数 30,000尾（R4:20,000尾） ・ 新規取扱店舗数 30店舗（R4:48店舗） ・ 新規漁業就業者数（水産） 21人（R4:25人） 内新規養殖就業者 1人 新規養殖参入拡大企業 1社 ・ ウナギ稚魚放流 300kg（R4:300kg）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策5-6】 ○農山漁村地域の基盤づくり</p> <p>農林水産業の生産基盤を堅持するため、老朽化する既存インフラへの長寿命化対策や自然災害による被害防止対策など、防災・減災対策を推進し、災害に強い農山漁村地域を創る。</p>	<p>農林水産業の生産力を高める基盤整備</p> <p>○ズワイガニ、アカガレイなどの生息環境を改善するための漁場保全（海底耕耘）を実施 【農林水産部】</p> <p>災害から農山漁村のくらしを守る基盤整備</p> <p>○老朽化した農業水利施設、治山施設、海岸・漁港施設などの機能強化や長寿命化に向けた機能保全計画の策定や長寿命化計画に基づく工事を施工し、災害に強い生産基盤を整備 【農林水産部】</p> <p>被害防止につながる地域活動の継続</p> <p>○農地の保全管理活動を強化するため、集落を超えた組織の広域化を推進 【農林水産部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁場保全（海底耕耘）実施面積 8,550ha（R4:8,446ha） ・長寿命化計画策定箇所数 12箇所（R4:91箇所） ・広域化の協定を締結する組織数 5組織（R4:2組織）

政策6 地域経済のイノベーション



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策6-1】 ○「福井型エコシステム」の構築</p> <p>地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と創業や有望ベンチャーの創出、事業創継等を拡大する。</p>	<p>クラウドファンディング等の活用促進</p> <p>○ 「ふくい地域経済循環ファンド」により、全国・海外展開に取組む創業者や事業者を支援するとともに、支援機関と協力し事業のフォローアップ等を実施 【産業労働部】</p> <p>起業家・ベンチャー企業の発掘・育成</p> <p>○ 市町や各地域の商工団体・金融機関と協力し、新たな創業者の創出とともに、独創的なアイデアを持つ学生や若者スタートアップを創出・育成 【産業労働部】</p> <p>有望ベンチャー企業への投資</p> <p>○ 意欲ある若者に働きかけベンチャー起業家を育成するとともに、「福井ベンチャーピッチ」や「福井ベンチャーピッチ in 東京」を開催し、ビジネスパートナーの獲得、資金調達を支援 【産業労働部】</p> <p>民間インキュベーション施設の整備促進</p> <p>○ インキュベートを行う投資会社（VC）等と連携し、学生や若者スタートアップの創出・育成を実施するとともに、県内外の企業や起業家等とのコミュニティ形成や交流を促進 【産業労働部】</p> <p>次世代の経営者への円滑な事業承継</p> <p>○ 事業承継に向けた企業価値向上の取組みを支援するとともに、従業員や産地内企業に加え、サーチファンドを活用した県外人材による第三者承継を推進 【産業労働部】</p> <p>跡継ぎベンチャーの推進</p> <p>○ 経営意欲を持つ県外人材による県内企業の承継を支援し企業の成長を促進するとともに、優れたビジネスモデルを持つ事業者に対しベンチャーピッチ等のベンチャー支援に繋げ、更なる事業展開を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国・海外展開に取組む事業者数 6件 (R4:10件) ・ 県の支援による創業数 250件 (R4:232件) ・ ベンチャーピッチ登壇者数 延べ10人 (R4: 5人) ・ 県内外の起業家等が交流する場を創出 ・ 県による事業承継支援件数 80件 (R4:76件) ・ 県外人材による事業承継件数 2件 (R4: 0件)
<p>【施策6-2】 ○デザインの手で魅力あるものづくり産地を創出</p> <p>産地全体にデザインの意識を浸透させることにより、国内外からの取引・観光が活発化する魅力的なものづくり産地を形成する。</p>	<p>デザインを活かした産地ブランディングの強化</p> <p>○ 県内外のデザイナー等と連携し、伝統工芸ブランド「F-TRAD」の商品開発やECサイト等を活用したPR・販売を促進 【産業労働部】</p> <p>繊維・眼鏡産業や伝統工芸の振興</p> <p>○ 国内外の展示会等への出展支援に加え、国際環境認証の取得や産地の魅力発信を後押しすることにより、産地の販路開拓や認知度向上を促進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ F-TRAD商品数 (累計) 50品 (R4: 35品) ・ 展示会への出展支援数 80件 (R4:73件)

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>産業観光の拡大</p> <p>○ 丹南伝統工芸産地において本物の伝統工芸を体験できるプログラムや周遊プランなどの造成を支援 【交流文化部】</p> <p>人材育成の強化</p> <p>○ 若者等をターゲットに、産地企業での技能習得に加え、魅力ある商品づくり、デザインや経営的な視点等を総合的に学ぶ「職人塾」を開催するとともに、職人塾修了生等を対象とした、キャリアアップのためのセミナー「伝統工芸職人大学」やコンペ方式の公募展を新たに開催し、若手職人の積極的な自己プロモーションを促進 ※再掲（政策2-2） 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験商品等の造成件数 4件（R4:4件） ・ 職人塾修了生の産地での就業率 90%（R4:92%）
<p>【施策6-3】</p> <p>〇くらしに根差した小さな企業の応援</p> <p>商工会・商工会議所等と一体となり、豊かなくらしの基盤となる小規模企業を継承・発展する。</p>	<p>プッシュ型の課題掘起しの強化</p> <p>○ 商工会・商工会議所や産業支援センターと協力し、企業訪問による積極的な課題の掘り起こしを重点化するとともに、課題解決に向け、経営指導員等による伴走型の支援を実施 【産業労働部】</p> <p>課題解決のための支援充実</p> <p>○ 小規模企業の収益力強化や取引適正化等の課題解決のため、新商品開発やサービスの改良、販路開拓などの付加価値を高める前向きな取組みを支援 【産業労働部】</p> <p>支援機関の横断的ネットワークによる支援</p> <p>○ 商工団体や金融機関、土業等が連携し、事業承継やDX分野等に関する相談会の開催や情報共有を行い、一体となって小規模企業の成長を支援 【産業労働部】</p> <p>新型コロナウイルス・物価高騰の影響を受けた事業者の事業継続への支援</p> <p>○ 売上等が減少した中小企業に対して、金融機関が伴走型の支援を行う制度融資にかかる保証料を全額補給し、事業継続への支援を継続 【産業労働部】</p> <p>原材料・原油価格高騰の影響を受けた事業者の事業継続への支援</p> <p>○ 電気・ガス料金が高騰する中、電気・ガス価格高騰緊急対策事業により、大きな影響を受ける事業者の事業継続を支援 【産業労働部】</p> <p>○ エネルギー価格や原材料費、労務費などが上昇する中、取引適正化対策強化事業により、中小企業の価格交渉・価格転嫁を促進 【産業労働部】</p> <p>○ 賃上げやリスキリングなど「人への投資」を加速するため、専門家による伴走型支援や補助金の上乗せ等により県内企業を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導数 延べ42,500件（R4:42,271件） ・ 付加価値向上に取り組む事業者数 200件（R4:—） ・ 小規模企業支援による売上向上率 3%（R4:R5.9月頃公表予定） ・ 事業者への給付件数 1,700件（R4:—） ・ 取引適正化対策に取り組む事業者数 600件（R4:—） ・ 専門家による巡回相談を行った企業数 800社（R4:—）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>雇用の維持・確保への支援</p> <p>○ 担い手不足が深刻な業種におけるインターンやトライアル雇用の機会を提供するとともに、就職する求職者へ奨励金を支給することにより、雇用機会の創出と雇用のミスマッチ解消を促進 【産業労働部】</p> <p>地域経済の回復・再生</p> <p>○ 県内小売・サービス業店舗や飲食店で利用できるデジタルパウチャー「ふく割」を発行し、“ついで買い”を誘発・喚起 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足が深刻な業種に就職した求職者数 200人（R4:198人）
<p>【施策6-4】 ○地域企業の生産性向上・人材確保</p> <p>Society 5.0時代の未来技術を担う人材を育成するとともに、多様な人材が活躍できる就業環境づくりを進め、各産業における人材確保を促進する。</p>	<p>AI・IoT等の新技術導入による生産性の向上</p> <p>○ DXラボと支援機関が連携し、県内企業にプッシュ型でDX推進を働きかける仕組みを構築するとともに、社内体制整備に向けてITコーディネーター等からなる専門家チームによる伴走支援を実施 【産業労働部】</p> <p>IT人材の確保・育成</p> <p>○ 学生、転職者等を対象にITスキルを習得するITスクールを開講し、県内企業のIT人材の育成・確保を支援するとともに、県外IT人材の雇用促進や副業・兼業をする都市部IT人材の活用により県内企業の成長を支援 【産業労働部】</p> <p>多様な人材が活躍できる就業環境の整備</p> <p>○ 障がい者雇用推進員の配置や、インターンシップ等の実施により、障がい者の就労を支援するとともに、特例子会社設立に関するアンケートやセミナーを実施し、障がい者の職業的自立と雇用の安定を図る。 ※再掲（施策3-4） 【産業労働部】</p> <p>就職氷河期世代への就職支援</p> <p>○ 就職氷河期世代への支援として、非正規労働者等に対する相談対応や定着支援を実施。また、無業者等に対する就職支援プログラムをアウトリーチ先でも実施 【産業労働部】</p> <p>企業が求める産業人材の育成</p> <p>○ イノベーションを創出する人材の育成を目的に国内外の大学院や研修機関等に社員を派遣する企業を支援 【産業労働部】</p> <p>○ 「人への投資」を促進するため、中小企業が行う外部研修等の教育訓練費用や訓練中の人件費等を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ DX推進企業の創出 20社（R4:20社） ・ ITスクール修了者 30人（R4:29人） ・ 障がい者雇用率 2.49%（R4:2.48%） ・ 就職氷河期世代の正規雇用者数 400人増/年（R4:1,627人） ・ 外部機関に社員を派遣する企業 3社（R4:—） ・ 従業員のスキルアップに取り組む中小企業数（累計） 47社（R4:—）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策6-5】 ○働く人のための「しあわせ働き方改革」を実行</p> <p>幸せと生産性を両立する働き方改革や労働者のワークライフバランスの向上を進め、日本一社員を大事にする県を実現する。</p>	<p>社員ファースト企業の拡大</p> <p>○ 経営者向けに「ウェルビーイング塾」を開講し、従業員が幸せを実感できる働き方を推進することで、県内企業の生産性向上を促進 【産業労働部】</p> <p>仕事と妊娠・出産の両立支援の推進</p> <p>○ 共働き・核家族での子育てや不妊治療と仕事を両立できる柔軟な働き方について、企業の取り組みを促進するため、経営者の意識啓発、推進企業への奨励金支給を実施 ※再掲（施策4-2） 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェルビーイング塾に参加する経営者 延べ300人（R4:—） ・ 父親の育児休業取得率 30%（R4:20.3%）

政策7 Society5.0時代の新産業創出



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策7-1】</p> <p>○成長産業へのチャレンジ応援</p> <p>繊維や眼鏡などこれまで培ったものづくり技術などを応用し、需要増が見込まれる航空機産業やヘルスケア産業の分野で世界をリードする技術・製品開発を進め、県内産業の多様化や規模拡大を実現する。</p>	<p>宇宙産業の拠点化</p> <p>○ 県民衛星画像利用システムの活用を進め、農業分野における衛星データ利活用研究等により、衛星データ利活用事例を拡大 【産業労働部】</p> <p>航空機産業への参入促進</p> <p>○ 工業技術センターの共同研究支援を通して、県内企業の高いものづくり技術を活かした航空機産業への新規参入を促進 【産業労働部】</p> <p>航空・宇宙産業の人材育成拠点化</p> <p>○ 人工衛星を製造する実地研修を開催し、意欲のある企業の参入および人材育成を促進 【産業労働部】</p> <p>ヘルスケア産業の育成</p> <p>○ 医療・介護・健康分野における製品開発、販路開拓の重点支援により、成長が見込まれるヘルスケア分野でのビジネス創出を支援 【産業労働部】</p> <p>持続可能な社会に向けた技術開発の促進</p> <p>○ エネルギーなどSDGs関連技術分野における研究開発を支援し、県内企業の関連産業への参入を促進 【産業労働部】</p> <p>オープンイノベーションによる稼ぐ力の強化</p> <p>○ 産総研北陸デジタルものづくりセンターと連携し、県内企業のデジタルものづくり分野における技術開発・製品開発を促進 【産業労働部】</p> <p>観光の産業化促進</p> <p>○ 魅せる工場見学や多彩な体験メニューなど、産業観光の拠点となる店舗や産地全体の情報発信機能を担う施設を整備するとともに、地域ガイドの育成や観光客のニーズに合ったプランや周遊ツアーの造成、PRツールの作成等により産地誘客を促進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 衛星データ活用事例件数（累計）16件（R4:13件） 普及講習会の参加企業数 35社（R4:33社） 参加企業・団体数 6企業・団体（R4:6企業・団体） ヘルスケア産業売上額 159億円（R4:157億円） エネルギー関連技術などSDGsに資する技術の研究開発件数 9件（R4:9件） 産総研と連携した技術開発案件数 2件（R4:—） 常設の産業観光施設整備数 5箇所（R4:5箇所）
<p>【施策7-2】</p> <p>○AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出</p> <p>AI・IoTなどの技術革新を取り込み、産業の高付加価値化や関連ビジネスの集積を目指す。</p>	<p>企業の課題を解決するシステムの研究・開発</p> <p>○ DXラボと支援機関が連携し、県内企業にプッシュ型でDX推進を働きかける仕組みを構築するとともに、社内体制整備に向けITコーディネーター等からなる専門家チームによる伴走支援を実施 ※再掲（施策6-4） 【産業労働部】</p> <p>Society5.0関連ビジネスの集積促進</p> <p>○ 県内IT企業と協力し、IoT・AI・5G等の先端技術を導入して業務効率化、高付加価値化を目指す企業を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> DX推進企業の創出 20社（R4:20社） 県内企業によるIoT・AI等を活用したサービス提供件数 12件（R4:13件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>AI時代に対応できる人材の育成</p> <p>○ 学生、転職者等を対象にITスキルを習得するITスクールを開講し、県内企業のIT人材の育成・確保を支援するとともに、県外IT人材の雇用促進や副業・兼業をする都市部IT人材の活用により県内企業の成長を支援 ※再掲（施策6-4） 【産業労働部】</p> <p>未来技術の活用促進</p> <p>○ 国内外の企業による未来技術を活用したプロジェクトの誘致や住民とIT企業等によるシビックテックの推進により地域の課題解決を支援 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITスクール修了者 30人（R4:29人） ・ 未来技術を活用したプロジェクトの件数 8件（R4:8件）
<p>【施策7-3】</p> <p>○多様な企業誘致の推進</p> <p>対話型トップセールスにより、ITサテライトオフィスや、本社機能の誘致など、若者や女性を惹きつける企業の立地を促進する。</p>	<p>対話型トップセールスの推進</p> <p>○ 東京、大阪、名古屋における企業立地セミナーでの知事トップセールス、オンラインセミナーによる誘致活動など、企業の県内立地を促進 【産業労働部】</p> <p>人と企業のセット誘致</p> <p>○ 若者や女性のUターンを促すことができるよう、県内への企業進出にあわせ住環境や働きやすい職場環境の整備を支援 【産業労働部】</p> <p>産業団地の整備促進</p> <p>○ 北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道全線開通を見据えた企業誘致を促進するため、市町と協働して新たな県営産業団地を整備 【産業労働部】</p> <p>多様な業種の企業誘致</p> <p>○ 県の施策・プロジェクトと連携する企業への支援制度を活用し、高い付加価値を生み出す企業や、小さくても魅力ある企業の県内立地を推進 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業立地・港セミナー参加者数 180人（R4:190人） ・ 新規雇用に占めるUターン雇用率 25%（R2-R4:25.2%） ・ 基本設計に着手 ・ 地域経済牽引事業枠による誘致 1件（R3-R4年平均:1件）
<p>【施策7-4】</p> <p>○嶺南Eコーストの実現</p> <p>嶺南地域においてスマートエネルギーエリアの整備、廃炉関連産業の育成、試験研究炉を核とした研究・人材育成拠点の形成などを進め、人・企業・技術・資金が集まるエリアの形成を目指す。</p>	<p>共創会議で示された取組の推進</p> <p>○ 「立地地域の将来像に関する共創会議」で示された将来像の実現に向け、国や立地市町、電力事業者等とともに取組を推進 【エネルギー環境部】</p> <p>スマートエリアの整備や農林水産業のスマート化</p> <p>○ 嶺南市町におけるスマートタウンの整備に向け、外部専門人材を活用するなどして、エネルギー利用の最適化やIoTを活用した魅力的なまちづくり等、市町の特徴ある施策を支援 【エネルギー環境部】</p> <p>原子カリサイクルビジネスの育成</p> <p>○ 廃止措置工事に伴って発生するクリアランス対象物の再利用ビジネスの実現に向け、地元企業等の参画による集中処理に必要な組織等について、電力事業者、市町、経済団体等と協議・検討 【エネルギー環境部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援する市町数 5市町（R4:5市町）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p data-bbox="837 118 1167 145">新たな試験研究炉の利活用促進</p> <p data-bbox="837 153 1688 264">○ 「もんじゅ」サイトに新たに整備される試験研究炉について、企業・学生を対象とする講習会を開催するとともに、具体的な活用が見込まれる関西圏・中部圏の企業に対するニーズ調査の結果を基に、コンソーシアム会議で地元等の意向を伝え、詳細設計等に反映 【エネルギー環境部】</p>	<ul data-bbox="1733 153 1928 201" style="list-style-type: none"> ・ 講習会等参加者数 500人（R4:487人）

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策8-1】 ○海外ネットワークの新展開</p> <p>県海外事務所やジェトロ、現地の貿易サポート会社等と連携し、世界の幅広い地域でのネットワークを構築することにより、県内企業の国際ビジネス展開を活性化する。</p>	<p>アジア・環日本海諸国でのビジネス展開の強化</p> <p>○ 県海外事務所（上海・バンコク）を拠点に、アジア・環日本海諸国での展示会への出展支援や海外企業の信用調査等を実施し、県内企業のビジネス展開を支援 【産業労働部】</p> <p>海外ネットワークの活用</p> <p>○ 「ふくいグローバルビジネスプラザ」を拠点に、上海・バンコクの各サポートセンターをつなぎ、県内企業の販路開拓や海外拠点開設等に関する相談対応を実施 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規輸出件数 75件 (R4:65件) ・ 相談件数 360件 (R4:303件)
<p>【施策8-2】 ○福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化</p> <p>食や伝統工芸品等の本県産品の販路開拓を促進し、拡大する世界市場を取り込むことにより本県の経済成長を実現する。</p>	<p>越境ECの活用</p> <p>○ 越境ECの参入対象国や参入形態の選定、販売促進策等について専門家による伴走型支援を実施 【産業労働部】</p> <p>海外展開の支援強化</p> <p>○ 県内企業の海外展示会等への出展支援や、海外バイヤーの招聘により、海外販路開拓を促進 【産業労働部】</p> <p>「ふくいの食」の輸出拡大（再掲）</p> <p>○ 営業代行やオンライン商談会などにより、県内事業者の海外販路開拓の機会を確保するとともに、米について、新品種米の実証栽培の拡大、初輸出を行うとともに、香港・シンガポールでの営業と併せたレセプションや即売・商談会等の開催を進め、アジアへの販路を拡大 ※再掲（施策5-2） 【農林水産部】</p> <p>港を活かした貿易拡大</p> <p>○ 敦賀港において、鞠山南地区国際物流ターミナルの拡張事業（岸壁延伸・ふ頭用地埋立）を推進 【土木部】</p> <p>インパウンドの拡大</p> <p>○ 海外富裕層の関心が高いZENをテーマにした旅行商品造成や現地で旅行会社等に対するプロモーションを実施 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 越境ECサイトへの出店企業 45社 (R4:37社) ・ 新規輸出件数 75件 (R4:65件) ・ アジアへの農林水産物・食品輸出額 20億円 (R4:18.8億円) ・ 敦賀港の取扱貨物量 17,000千トン (1~12月) (R4:16,939千トン) ・ 外国人宿泊者数 45,000人 (R4:13,880人)

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策8-3】 ○国際交流の推進</p> <p>歴史的につながりの深い環日本海諸国や経済交流が進む東南アジア諸国、欧米諸国等と、地域や民間レベルでの交流を進め、グローバル化に対応した国際人材の育成等を図るとともに、交流の基盤を企業の海外展開や誘客に活かす。</p>	<p>青少年交流や地域間交流の推進</p> <p>○ 中国浙江省、ドイツハールブルク郡ヴィンゼン市、米国フィンドレー市と青少年や研修生の相互派遣など人的交流を実施 【産業労働部】</p> <p>留学生や県内企業に勤務する外国人等を通じた交流推進</p> <p>○ 県内在住外国人をF u k u iレポーターズに、県内滞在経験がある外国人を福井県友好大使に委嘱し、SNS等で新幹線開業など福井県の魅力を国内外に発信 【産業労働部】</p> <p>国際協力の推進</p> <p>○ 中国浙江省とブラジルから技術研修員を受入れ、同省国の経済発展に寄与するとともに、本県との経済交流に繋がる人的ネットワークを構築 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外機関等との交流や協力関係の構築（累計） 320件（R4:306件） レポーターズおよび友好大使の委嘱者数 80人（R4:72人） 技術研修員の受入人数（累計） 442人（R4:438人）

政策9 100年に一度のまちづくり



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策9-1】 ○北陸新幹線など高速交通網の整備促進</p> <p>令和5年度末の北陸新幹線福井・敦賀開業の確実な実現と、1日も早い大阪までの全線開業、幹線道路網の構築により広域的な物流・交流を担う県土の骨格を形成する。</p>	<p>北陸新幹線の整備促進 <金沢・敦賀間></p> <p>○ 今年度末の確実な開業に向け、連絡会議を通じて、機構の事業執行を確認するとともに、政府・与党に要請。開業日には、開業を祝して記念式典を開催 【未来創造部】</p> <p><敦賀・新大阪間></p> <p>○ 1日も早い認可・着工および全線開業に向け、沿線自治体・経済界と連携して今後のスケジュール感の早急な明示等を政府・与党に要請。関西の機運醸成に向けて、福井・敦賀開業と合わせて全線開業をPRするなど情報発信を強化 【未来創造部】</p> <p>福井・敦賀開業時の利便性確保</p> <p>○ 敦賀駅におけるスムーズな乗り継ぎなど県民の利便性が確保されるよう、沿線自治体・経済界と連携して政府・与党に要請するとともにJRと協議 【未来創造部】</p> <p>高規格道路の整備促進</p> <p>○ 中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通に向け、トンネルや橋梁等の工事促進 【土木部】</p> <p>○ 舞鶴若狭自動車道の全線4車線化に向け、舞鶴東～小浜間の工事着手および未事業化区間の早期事業化 【土木部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度末の福井・敦賀開業 敦賀以西の延伸のための政府予算の確保 敦賀駅でスムーズに乗り継げるダイヤの実現 秋までに勝原～九頭竜間開通 年内に4車線化の工事着手 市町が実施する土砂活用事業に対して支援 3箇所（R4:1）
<p>【施策9-2】 ○新幹線駅周辺のまちづくり</p> <p>北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出する。</p>	<p>県都のまちづくり</p> <p>○ 福井駅前電車通り北地区（A街区、B街区）、福井駅前南通り地区において、再開発組合に対して補助を行う福井市を支援 【土木部】</p> <p>○ 経済界・県・市が策定した「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺のにぎわい創出など官民連携による県都のまちづくりを推進 【未来創造部】</p> <p>○ 福井駅周辺を魅力ある商業エリアとするため、「県都まちなか再生ファンド」を活用し、県・市・地域金融機関が連携して福井駅中心市街地の店舗改装や新規出店、景観整備等を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線開業までにA街区のホテル棟および駐車場棟完成 福井城址坤櫓等復元の基本設計実施足羽川アクティビティセンター（仮称）を整備 商店街の店舗改装支援件数15件（R4:10件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>新幹線駅周辺の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新幹線駅設置市が主体的に進める駅前広場の整備や県・敦賀市・民間団体による金ヶ崎地区や氣比神宮周辺エリアにおける敦賀のまちづくりを推進【未来創造部】 ○ 敦賀市中心部をにぎわいあるものとし、観光客の呼び込む核となるエリアのリノベーションを進めるため、県・市・地域金融機関が連携して中心市街地の店舗改装や景観整備等を支援【産業労働部】 <p>新幹線駅のアクセス道路を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな新幹線駅へつながる道路を整備し、円滑な駅へのアクセスを確保 敦賀駅 敦賀駅東線【土木部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦原温泉駅東口および敦賀駅東口の整備工事完了 ・ 中心市街地の店舗改装等支援件数 8件（R4: 5件） ・ 新幹線開業までの完成
<p>【施策9-3】</p> <p>○地域の新交通システムの構築</p> <p>二次交通の利便性向上を図り、北陸新幹線福井・敦賀開業による交流を県内全域に拡げ、利用者の増加により地域交通の維持・確保を実現する。</p>	<p>主要交通拠点からの二次交通の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内新幹線駅からの二次交通の充実を図るため、市町や交通事業者等と連携し、観光定額タクシーやまちなかデマンド交通の実施、交通系ICカードやロケーションシステムの導入等により、利用者の利便性を向上【未来創造部】 <p>持続可能な交通ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町や事業者等とともに持続可能な交通ネットワークのあり方や新幹線二次交通について検討し、嶺北地域公共交通計画を策定【未来創造部】 <p>地域鉄道の運行への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福井鉄道・えちぜん鉄道について、除雪車更新やレール更换など、安全・安定運行に必要な設備更新を計画的に支援するとともに、沿線市町とともに利用促進策を実施【未来創造部】 <p>並行在来線の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新駅設置や駅まち空間の魅力づくり、利用促進に取り組む地域活動の創出・支援など、並行在来線の利用促進に向けた取組みを推進【未来創造部】 <p>並行在来線会社と地域鉄道の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハビラインふくい、福井鉄道、えちぜん鉄道が連携し、資材等の共同調達や災害時における相互協力、広報・イベントの共同実施などの3社連携事業を実施【未来創造部】 <p>JR小浜線・越美北線の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ローカル線活性化のため、JR小浜線・越美北線の利用促進団体等の活動を支援【未来創造部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内新幹線駅における新たな二次交通手段の導入 路線バスに交通系ICカードを導入 ・ 嶺北地域公共交通計画を策定 ・ 利用者数 福井鉄道 201万人 (R4:187万人) えちぜん鉄道 365万人 (R4:339万人) ・ 地域活動を支援する団体数（累計） 14団体（R4: 7団体） ・ 連携事業の実施数 5件以上（R4: 3件） ・ 利用者数 小浜線 125万人（R4:117万人） 越美北線 30万人（R4: 28万人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策9-4】 ○飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用</p> <p>道路ネットワークや地域鉄道、港湾等物流・交流軸の整備により、大交流化時代の産業基盤を確固にし、活力に満ちた地域をつくる。</p>	<p>主要幹線道路ネットワークの構築</p> <p>○ 国道417号 冠山峠道路の年内開通、国道8号 牛ノ谷道路・金津道路の用地取得および国道8号 敦賀防災の改良工事の推進 【土木部】</p> <p>○ 福井港丸岡インター連絡道路の早期開通に向け、用地取得、測量調査、橋梁工事等の推進 【土木部】</p> <p>地域をきずく道づくりの推進</p> <p>○ 地域間の交流拡大、連携促進のための道路整備を推進 ・国道365号（梅浦バイパス）、清水美山線、坂本高浜線、徳光福井線などの工事推進 【土木部】</p> <p>港湾機能の強化による物流・人流の活性化</p> <p>港のにぎわい創出</p> <p>○ 敦賀港において、鞠山南地区国際物流ターミナルの拡張事業（岸壁延伸・ふ頭用地埋立）を推進 ※再掲（8-2） 【土木部】</p> <p>○ 海外および国内展示会の出展等により海外クルーズ客船の誘致活動を強化し、寄港の拡大およびラグジュアリー客船等の誘致を推進 【産業労働部】</p> <p>福井空港の活用</p> <p>○ 福井空港の利活用を推進するため、小型ジェット機やヘリコプターなどによる利用増加、地元住民が日常的に空港を訪れる機会の創出、空港再整備構想（案）の検討を実施 【土木部】</p> <p>小松空港の利用促進</p> <p>○ 小松空港の国際定期路線の台北便に続く運航再開に向けて、石川県と連携して航空会社に働きかけ 【未来創造部】</p> <p>コンパクトな都市づくりの推進</p> <p>○ 広域的・根幹的な都市計画の基本的な方向性を示す福井県都市計画マスタープランの改定案を取りまとめ 【土木部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 冠山峠道路の年内開通 I 期区間の全橋梁下部工事完成 道路改良済延長（県管理）1,524km（R4:1,516km） 敦賀港の取扱貨物量17,000千トン（1~12月）（R4:16,939千トン） クルーズ客船寄港回数3回（R4:3回） 「福井空港利活用推進事業」実施による着陸回数76回（R4:—） 福井県都市計画マスタープランの改定案を取りまとめ
<p>【施策9-5】 ○「WAKASAリフレッシュエリア」の形成</p> <p>将来の北陸新幹線大阪開業に向け、関西への近接性を生かして、まちづくりや産業のプレイヤーを呼び込み、文化的・健康的に暮らせる生活エリアを形成する。</p>	<p>都市との近接性を活かしたライフスタイル先進地の形成</p> <p>○ 嶺南市町におけるスマートタウンの整備に向け、外部専門人材を活用するなどして、エネルギー利用の最適化やI o Tを活用した魅力的なまちづくり等、市町の特色ある施策を支援 ※再掲（政策7-4） 【エネルギー環境部】</p> <p>○ 観光資源を活かしたコンセプトルームへの改修や、旅の目的となる上質な民宿への改修など、多様かつ魅力的な宿泊施設の整備を支援 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援する市町数5市町（R4:5市町） 宿泊施設改修の支援件数20件（R4:17件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>まちづくりや産業のプレイヤーの育成・誘致</p> <p>○ 移住支援金制度を県・市町独自で東京圏以外にも拡充し、県内企業への就職や、就農、事業承継など多様な就業とのマッチングを促進。さらに、子どもを帯同して移住する世帯への加算を拡充し、子育て世帯の移住を促進</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>リフレッシュコンテンツの充実</p> <p>○ 「嶺南振興プロジェクト枠予算」で北陸新幹線福井・敦賀開業、さらには大阪までの早期全線開業に向け、観光振興等の地域課題に対し、迅速に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地周辺の道路景観整備 など <p style="text-align: right;">【嶺南振興局】</p> <p>○ 嶺南6市町を結ぶ若狭湾サイクリングルートの走行環境、受入環境等の整備を実施</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部・嶺南振興局】</p> <p>○ 三方五湖エリアにおける観光施設等の拠点整備を支援</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部・嶺南振興局】</p> <p>○ 嶺南地域への新たな誘客を促進するため、夫婦やカップル、外国人等を対象に、嶺南の強みを活かした付加価値の高い新たな体験コンテンツを造成</p> <p style="text-align: right;">【嶺南振興局】</p> <p>○ 嶺南地域における広域的な周遊を促進するため、小浜線で城跡を巡るキャンペーンやレストランバスの運行において、更なる誘客につながる新たな企画を実施</p> <p style="text-align: right;">【嶺南振興局】</p> <p>○ 新幹線敦賀駅から嶺南全域への周遊の利便性を高めるため、三方五湖や小浜方面への広域バスの運行、定額タクシーの運行、観光型Ma a Sの導入を支援</p> <p style="text-align: right;">【嶺南振興局】</p> <p>○ 北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせて、嶺南誘客キャンペーンを開催</p> <p style="text-align: right;">【嶺南振興局】</p> <p>玄関口の形成と地域交通ネットワークの強化</p> <p>○ 1日も早い認可・着工および全線開業に向け、沿線自治体・経済界と連携して今後のスケジュール感の早急な明示等を政府・与党に要請。関西の機運醸成に向けて、福井・敦賀開業と合わせて全線開業をPRするなど情報発信を強化</p> <p style="text-align: right;">※再掲（施策9-1） 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移住支援金マッチング件数 240件（R4:223件） <ul style="list-style-type: none"> ・三方五湖～小浜区間の走行環境整備 ・舟小屋改修を支援 ・新たな体験コンテンツ造成件数 3件（R4:-） ・新たな企画の実施件数 2件（R4:-） ・ゴコイチバスの利用者数 1,500人（R4:737人） ・メディアやイベントを活用して 首都圏へ情報発信 ・敦賀以西の延伸のための政府予算の確保

政策10 北陸新幹線開業効果を最大化



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策10-1】 ○観光客の心をつかむ魅力づくり</p> <p>観光リゾートエリアの形成や産地連携による産業観光ビジネスへの展開を強化などにより、本県の観光資源の魅力高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、誘客を拡大する。</p>	<p>恐竜博物館のフルモデルチェンジ</p> <p>○ 恐竜博物館の機能強化について、令和5年夏のリニューアルオープンを目指し整備を促進 【交流文化部】</p> <p>東尋坊周辺のスケールアップ</p> <p>○ 坂井市が実施する誘客拠点施設の整備や駐車場の一元化など、東尋坊再整備基本計画に基づく各種事業を支援 【交流文化部】</p> <p>丹南伝統的工芸品産地の誘客拡大</p> <p>○ 丹南伝統工芸産地において本物の伝統工芸を体験できるプログラムや周遊プランなどの造成を支援 ※再掲（施策6-2） 【交流文化部】</p> <p>○ RENEWや千年未来工芸祭など、伝統工芸の産地組合や商工団体、県、市町の連携により、産業観光イベントやものづくり体験教室等を開催 【産業労働部】</p> <p>三方五湖周辺など嶺南地域の魅力拡大</p> <p>○ 三方五湖エリアにおける観光施設等の拠点整備を支援 ※再掲（施策9-5） 【交流文化部・嶺南振興局】</p> <p>○ 新幹線敦賀駅から嶺南全域への周遊の利便性を高めるため、三方五湖や小浜方面への広域バスの運行、定額タクシーの運行、観光型Ma a Sの導入を支援 ※再掲（政策9-5） 【嶺南振興局】</p> <p>○ 嶺南6市町を結ぶ若狭湾サイクリングルートの走行環境、受入環境等の整備を実施 ※再掲（施策9-5） 【交流文化部・嶺南振興局】</p> <p>世界に通用する福井の食・食文化による誘客拡大</p> <p>○ 食ブランド向上につながる飲食店等の開設を支援し、魅力的な食を楽しむ「場」を拡大 【交流文化部】</p> <p>観光を楽しむ・滞在したくなる仕掛けづくり</p> <p>○ 幕末明治や戦国に活躍した本県の先人たちが主人公となり、福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラなどの実現に向け、NHKへ働きかけ 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 増築部の建築工事や展示工事を進め、博物館の改修工事を推進 (建築工事R3.10～R5.6 展示工事R3.12～R5.6 改修工事R4年度～R5.6) 県道拡幅、駐車場一元化等の工事に着工 体験商品等の販売件数 4件 (R4:4件) RENEW参加者数 4万人 (R4:3.7万人) 舟小屋改修を支援 ゴイイチバスの利用者数 1,500人 (R4:737人) 三方五湖～小浜区間の走行環境整備 開設支援 5件 (R4:5件) 要望を実施

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>MICE、教育旅行の目的地としての魅力向上</p> <p>○ 福井県観光連盟が国際商談会等に参加し、国際会議や学会などを誘致 【交流文化部】</p> <p>開業・開通効果を高める記念イベントの開催</p> <p>○ 新駅設置4市が中心に行うカウントダウンイベントや北陸新幹線開業時の歓迎イベントへの支援を充実 【交流文化部】</p> <p>福井を舞台とした映画・ドラマ等の誘致</p> <p>○ 一乗谷朝倉氏遺跡博物館において、貴重な借用資料を活用し、誘客の目玉となる特別展や関連イベントを開催 【交流文化部】</p> <p>多様な宿泊形態の充実</p> <p>○ 観光資源を活かしたコンセプトルームへの改修や、旅の目的となる上質な民宿への改修など、多様かつ魅力的な宿泊施設の整備を支援 ※再掲（政策9-5） 【交流文化部】</p> <p>新型コロナウイルス感染症収束に向けた県内観光推進</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ県内外からの旅行需要を喚起 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘致活動件数 350件（R4:350件） ・ 開業歓迎イベントを支援する市町数 4市（R4:4市） ・ 一乗谷朝倉氏遺跡来訪者 1,000,000人（R4.750,600人） ・ 宿泊施設改修の支援件数 20件（R4:17件） ・ 県内への宿泊、日帰り旅行割引、地域クーポン発行を実施
<p>【施策10-2】</p> <p>○観光客の心をつかむ魅力づくり</p> <p>北陸新幹線福井・敦賀開業に向け食や伝統工芸、観光資源など集中的なプロモーションやブランド力の強化等を行い、ふくいブームを創出する。</p>	<p>新幹線駅から県内観光地までのアクセス改善</p> <p>○ 新幹線利用客をターゲットとした駅発着の定期観光バスツアーを新たに立ち上げ、県内周遊の利便性向上につなげる 【交流文化部】</p> <p>新幹線開業に向けた情報発信の強化</p> <p>○ 東京丸の内周辺において新幹線開業や福井の魅力を発信する開業カウントダウンイベントを連続的に実施するとともに、首都圏や沿線地域において年間を通じて観光プロモーション活動を実施 主な場所：丸の内周辺、上野駅・大宮駅・長野駅・高崎駅、神楽坂、羽田空港 【交流文化部】</p> <p>○ 首都圏北部（埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、長野県）において、福井県魅力を発信する恐竜、食などの物産フェアや地域イベントへの出展を継続的に実施 【首都圏統括監】</p> <p>個々の資源の付加価値・ブランド力の向上</p> <p>○ 県内事業者による宿泊施設・食のブランディング・先駆的な体験プログラム開発を支援 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新幹線各駅から1コース以上、合計8コースのツアー設定 ・ 出向宣伝活動の回数 7回（R4:6回） ・ マスメディア等での露出件数 1,000万回（R4:10,057,399回） ・ 支援件数 40件（R4:16件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>アンテナショップの機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふくい南青山291」を、県内企業と首都圏のクリエイター等のコラボレーションの場として商品開発等を促進するとともに、「ふくい食の国291」を拠点に県産品の魅力を首都圏に発信 【産業労働部】 <p>魅力的な県産品等を活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 恐竜を活用したイベントや県内グルメを集めたイベントを地域百貨店で開催 【産業労働部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふくい食の国291」売上げ 3.2億円（R4:0.4億(R4.2.24~3.31)） ・ 来場者 30万人（R4:19.5万人）
<p>【施策10-3】</p> <p>○ 世界を魅了するインバウンド強化</p> <p>国・地域などターゲットに応じた情報発信やコンテンツの充実、キャッシュレスの促進など外国人目線の受入れ環境の整備を推進し、インバウンドを拡大する。</p>	<p>国・地域に応じた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 欧米、東南アジア等ターゲットエリアに応じ、ZENや自然、グルメなどエリアに合ったコンテンツを作成・発信 【交流文化部】 <p>近隣府県等からの誘客強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪万博などにより訪日客が見込まれる関西の観光団体等と連携し、伝統工芸やアクティビティなどテーマ性を持った旅行商品を開発 大阪・関西万博の本県パビリオンへの出展内容についてのアイデアを民間から公募 【交流文化部】 <p>インバウンド向け観光コンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外富裕層の関心が高いZENをテーマにした旅行商品造成や現地で旅行会社等に対するプロモーションを実施 ※再掲（施策8-2） 【交流文化部】 <p>世界基準の外国人受入れ環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町が選定する重点整備エリア内における多言語化や無料エリアWi-Fi、キャッシュレス決済等の整備を支援 【交流文化部】 ○ 北陸新幹線県内開業に向け、駅周辺市街地や観光拠点周辺の店舗等における食事スペースの個室化等の改装・設備導入や体験施設整備等を支援 【産業労働部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井を訪問する旅行商品の造成件数 6件（R4:1件） ・ 広域周遊観光ルートのご共同開発件数 3件（R4:2件） ・ 外国人宿泊者数 45,000人（R4:13,880人） ・ 市町に対する整備支援件数 3件（R4:1件） ・ 支援件数 20事業者（R4:20事業者）
<p>【施策10-4】</p> <p>○ すべての人が満足できる観光環境づくり</p> <p>おもてなし環境を整備することにより、すべての観光客が満足した旅行ができ、滞在・リピートしたくなる環境をつくる。</p>	<p>おもてなし環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県民によるおもてなし宣言の登録や、新たに経営者向けのおもてなし向上研修を開催し、県民や観光事業者のサービス品質向上を促進し、受入態勢を強化 【交流文化部】 <p>観光の「見える化」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県版DMOによる観光デジタルマーケティングを通じてターゲット像を作成し、稼ぐ観光地域づくりをサポート 【交流文化部・教育庁】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなし宣言件数（累計） 1,000件（R4:847件） ・ デジタルアンケートを実施する県全域の観光地 90箇所（R4:70箇所）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策10-5】 ○観光産業化の基盤づくり</p> <p style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> 福井県版DMOを中心に地域の観光プレイヤーを発掘・育成し、宿泊・飲食など観光客に気持ちよい消費を促すことにより、地域の観光収入を増加させる。 </p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">頑張る民間事業者の活動支援</p> <p>○ 観光プレイヤーの発掘・支援、マーケティングデータ分析による新たな観光商品の開発 【交流文化部】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観光のイノベーションを起こす人づくり</p> <p>○ 地域の観光を牽引するリーダーに加え、新たに観光ビジネスを始める事業者を育成 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光プレイヤーの支援 80事業者（R4:80事業者） ・ 観光ビジネス創造コース受講者数 40人（R4:39人） <ul style="list-style-type: none"> 地域マネジメントコース 20人 観光ビジネス創造コース 20人

政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策11-1】 ○産学官連携による学生の県内就職の促進</p> <p>産業界と教育機関、県や市町が一体となって、地域に根差した教育や県内外の学生と県内企業との接点を拡大するなど、学生の県内進学・就職を促進する。</p>	<p>魅力的な大学づくりによる県内進学促進</p> <p>○ 県内高校から県内大学等への進学率を高めるため、県内高校生を対象とした進学強化策を展開 ※再掲（施策2-2） 【総務部】</p> <p>地域に根差した教育の推進</p> <p>○ 普通科高校1年生を主な対象に「キャリア教育セミナー」を開催 ・理系分野および歴史分野で活躍する女性による講演を拡充 ※再掲（施策1-3） 【教育庁】</p> <p>県内外の大学と県内企業等とのつながり強化による県内就職促進</p> <p>○ 理系学生を対象に県内企業の魅力に触れる機会を提供し、県内定着やU I ターン就職を促進 【交流文化部】</p> <p>理系人材のU I ターン促進</p> <p>○ U I ターン奨学金返還支援や理系の教員・学生を対象とした企業見学ツアー、企業技術者と学生が交流する業界研修会の開催等により、理系学生の県内就職を促進 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内高校卒業生の県内大学進学率 39.2%（R3年度卒34.3%） ・ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 高校生 75.0%（R4:75.6%） ・ 県内学生（理工系）の県内就職者数 180人（R4:R5.9月公表予定） ・ 参加学生数 60人（R4:53人）
<p>【施策11-2】 ○都市部への「攻め」の移住政策</p> <p>関西（京都、大阪）からの移住促進体制を強化するとともに、都市部の地方転職希望者に対し、県内企業への就職をはじめ、就農や事業承継など、多様な就業とのマッチングを促進し、移住を拡大する。</p>	<p>「ふるさと福井移住定住促進機構」の体制強化</p> <p>○ 福井暮らしはたらくサポートセンター福井オフィスにマネージャーを配置し、マッチング機能を強化 【交流文化部】</p> <p>デジタルを活用した移住情報の発信</p> <p>○ 都市部の若者・子育て世代を主なターゲットとして、インターネット広告や福井の生活環境をPRする動画を配信するとともに、SNSキャンペーンを展開することにより、福井への移住ブームを創出 【交流文化部】</p> <p>福井の産業力を活かした移住促進</p> <p>○ ものづくりを支える仕事やイベント等の企画・運営に携わりたい若者とのマッチングを促進するため、地域において通年で仕事・暮らし体験が可能な受入プログラムを作成、都市部に発信し受入を実施 【交流文化部】</p> <p>産業人材の呼び込み</p> <p>○ 若者や女性のU I ターンを促すことができるよう、県内への企業進出にあわせ住環境や働きやすい職場環境の整備を支援 ※再掲（施策7-3） 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新ふくい人の数 1,100人（R4:1,229人） ・ P R 動画再生回数 10万回（R4:ー） ・ 受入人数 30人（R4:ー） ・ 新規雇用に占めるU I ターン雇用率 25%（R2-R4:25.2%）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>UIターン移住就職等支援の強化</p> <p>○ 移住支援金制度を県・市町独自で東京圏以外にも拡充し、県内企業への就職や、就農、事業承継など多様な就業とのマッチングを促進。さらに、子どもを帯同して移住する世帯への加算を拡充し、子育て世帯の移住を促進 ※再掲（政策9-5） 【交流文化部】</p> <p>市町・企業と連携した移住の促進</p> <p>○ 市町や企業と連携して「仕事」×「住まい」×「定着支援」を組み合わせた「移住応援パック」を開発し、若者や子育て世代、シングルマザーなど、新たな移住層を開拓 【交流文化部】</p> <p>移住者のネットワークづくり</p> <p>○ 移住者を移住サポーターとして認定し、情報発信や現地コーディネートなどの活動を促進するほか、移住の下見等で来県する人に交通費助成を実施 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住支援金マッチング件数 240件（R4:223件） ・ 「移住応援パック」開発件数 70件（R4:63件） ・ 移住サポーター数 30人と6団体（R4:19人と5団体）
<p>【施策11-3】</p> <p>○関係人口の創出・拡大</p> <p>都市部の学生や社会人に向けて、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化やUIターンにつなげる。</p>	<p>学生の地域滞在型キャンプの拡大</p> <p>県内大学の学生を対象とした「福井研修プログラム」の開発</p> <p>○ 京都に設けた「ふくいとの関わりステーション」で県外学生の地域滞在型キャンプの実施を支援 ※再掲（政策9-5） 【交流文化部】</p> <p>「テレワーク」、「ワーケーション」の実践</p> <p>○ 都市部の共働き子育て世帯をターゲットに、「ふく育県」の優れた子育て環境を体験しながら、家族で県内に長期滞在できるモデルを構築し、子育て家族の来県を拡大 【交流文化部】</p> <p>「地方兼業・副業」の推進</p> <p>○ 都市部で活躍する専門人材を「DX推進アドバイザー」として委嘱。データサイエンスの知見を活用した政策立案やDX人材の育成に係る助言等を通じ、県や市町のDX施策の底上げを図るとともに関係人口を拡大 【未来創造部】</p> <p>市町と連携した「微住」の促進</p> <p>○ ワケーション受入れ拡大のため、市町と連携し、地域との交流を促進する地域交流型パッケージを開発、マッチングツアーを開催するほか、都市部に勤務する者が「お試しテレワーク」をする際の交通費や滞在費を支援 【交流文化部】</p> <p>移住者による地域との関わりづくりの推進</p> <p>○ 移住者を移住サポーターとして認定し、情報発信や現地コーディネートなどの活動を促進するほか、移住の下見等で来県する人に交通費助成を実施 ※再掲（施策11-2） 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプ実施地区 3地区（R4:3地区） ・ 来県親子数 15組（R4:-） ・ DX推進アドバイザーによる政策へのアドバイス件数 30件（R4:28件） ・ 滞在応援パック開発市町数（ワーケーション受入パッケージ含む） 8市町（R4:7市町） ・ 移住サポーター数 30人と6団体（R4:19人と5団体）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p data-bbox="831 118 1249 145">ふるさと納税を活用した交流人口の拡大</p> <p data-bbox="831 150 1693 209">○ ふるさと納税を活用し、本県の地域ブランドの知名度向上や来県を促進 【交流文化部】</p> <p data-bbox="831 252 1473 279">企業版ふるさと納税をきっかけとした県外企業との関係構築</p> <p data-bbox="831 284 1693 357">○ 企業版ふるさと納税制度を活用し、県の主要プロジェクトに、資金やノウハウなど民間の活力を導入し、県外企業との関係を構築 【交流文化部】</p>	<p data-bbox="1729 150 2018 201">・ ふるさと納税額 1億円（R4:1億2,314万円）</p> <p data-bbox="1729 284 1984 335">・ 企業版ふるさと納税額 1億円（R4:1,692万円）</p>

政策12 文化・スポーツがふくいの活力



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策12-1】 ○歴史ミュージアムふくいの発信</p> <p>福井の誇る歴史・文化遺産等を大切に保存・継承するとともに、それらをネットワーク化し発信するなど、本県の歴史・文化を活かし地域の活力を高める。</p>	<p>様々な博物館等のネットワーク・ストーリー化による発信強化</p> <p>○ ホームページ「FUKUI MUSEUMS」により、県内の博物館等の情報を一括配信するとともに、県立5館が連携し、共通観覧券や割引等クーポンを作成し県内周遊を促進 【交流文化部】</p> <p>博物館・美術館の魅力向上</p> <p>○ 学芸員同士の情報交換による魅力あるテーマの連携展示などにより、博物館を核とする県内周遊を促進 【交流文化部】</p> <p>一乗谷ミュージアムの発信</p> <p>○ 遺跡全体を「日本最大の戦国フィールドミュージアム」として、誘客事業へデザイン視点を導入した、統一的なサイン整備や遺跡内のイベントを開催するとともに、東京丸の内周辺施設においてPRイベントを実施 【交流文化部】</p> <p>歴史遺産の活用</p> <p>○ 県内で認定されている5つの日本遺産について、構成文化財を紹介するツールを作成し情報を発信 【交流文化部】</p> <p>文化財の保存・継承</p> <p>○ 小中学校や地域住民へ文化財の魅力伝える出前授業・出前講座を開催 【教育庁】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月にHPリリース、運用開始 ・ 連携展示 3回（R4:ー） ・ 遺跡内イベントやPRイベントの開催 3回（R4:ー） ・ ツール作成（R4:ー） ・ 受講者数 360人（R4:886人）
<p>【施策12-2】 ○デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり</p> <p>芸術文化に親しむ機会を充実するほか、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみに溢れるおもしろいまちづくりを推進する。</p>	<p>デザインやアートに親しむ機会の充実</p> <p>○ 誰もが発表できる簡易な「まちなかステージ」の設置・運営を支援 【交流文化部】</p> <p>サブカルチャーやポップカルチャーを含め多様な芸術文化活動を応援</p> <p>○ 幅広い世代が楽しめるサブカルチャーイベントを開催 【交流文化部】</p> <p>国際音楽祭等による国際交流を推進</p> <p>○ 各国からアーティストを招いた国際音楽祭や展覧会の開催を支援 【交流文化部】</p> <p>地域におけるアート活動の拡大</p> <p>○ 芸術家が自然や伝統工芸等の地域資源を活かして制作活動を行うプロジェクトを支援 【交流文化部】</p> <p>○ 県都福井のにぎわいを創出するため、ワンパークフェスティバルや県庁広場・県庁ホールを活用した民間によるイベントの開催を支援 【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな設置地域 2市町（R4:2市） ・ サブカルチャーイベント開催数 1回（R4:1回） ・ 文化国際交流イベントの数 5回（R4:3回） ・ 新たなアートプロジェクトの実施 2団体（R4:2団体） ・ イベント来場者数 10,000人（R4:8,000人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>デザインとものづくりの融通</p> <p>○ RENEWや千年未来工芸祭など、伝統工芸の産地組合や商工団体、県、市町の連携により、産業観光イベントやものづくり体験教室等を開催 ※再掲（施策10-1）</p> <p style="text-align: right;">【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> RENEW参加者数 4万人（R4:3.7万人）
<p>【施策12-3】 ○ スポーツによるまちづくり・交流人口拡大</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かす。</p>	<p>国体・障スポレガシーを活かしたスポーツイベントの持続的な開催</p> <p>○ 有名選手やチームを招待して開催するエキシビジョンマッチなど、県内外から多くの観戦者を呼び込めるイベントの開催を支援、また日本スポーツマスターズなど全国規模の大会を誘致</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の福井県開催</p> <p>○ ワールドマスターズゲームズなどの世界大会や全国大会を契機として、スポーツを活かしたまちづくりを進める市町を応援</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>スポーツツーリズムの推進</p> <p>○ ふくい桜マラソンの開催に向けた準備、プレ大会などの機運醸成・大会広報を実施。海や川、山など自然を活かして県内外から参加者を募集するスポーツイベントの企画・開催を支援</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>県内トップスポーツチーム・選手を県民一体でサポート・応援</p> <p>○ 県の観光地等のPRや、スポーツ教室の開催、地域活動（祭り、清掃等）への参加を通じてファンの獲得を目指す「ふくい県民応援チーム（愛称：FUKUI RAYS）」の活動を支援</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>1県民1スポーツの推進</p> <p>○ 県民スポーツ祭や障スポ☆フェスタ、はびりゅうフェスタ等のスポーツ体験会や参加型のイベントの開催、クラブや指導者の育成など、県民がスポーツに親しむ環境づくりの推進</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p> <p>トップアスリートの養成</p> <p>○ 県・スポジョブ選手・競技団体が一体となったスカウト活動で、「スポジョブふくい」によるアスリートのUIターンを推進</p> <p style="text-align: right;">【交流文化部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観戦者1,000人以上のスポーツイベント開催件数 5件（R4:3件） スポーツを活かしたまちづくりを進める市町数 5市町（R4:6市町） 大会参加者数 15,000人（R4:プレ 約4,100人） ふくい県民応援チーム・ホーム戦の平均入場者数 3,000人（R4:2,681人） 成人のスポーツ実施率 60%（R4:54.8%） 競技スポーツの全国大会での上位入賞数（1~3位） 100件（R4:200件）

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策13-1】 ○100歳までの「健活力」の向上</p> <p>一滴がん検診の導入やフレイル予防等の促進により、疾病・要介護化を防止するとともに、元気な高齢者の社会参加を通じて、県民みんなが100歳まで健康に活躍できる。</p>	<p>フレイル予防・認知症予防の強化</p> <p>○「ふくい型フレイル予防プログラム」について、市町のほか高齢者団体にも実施を促し全市町での参加者を拡大するほか、チェックデータの経年履歴から個人ごとの傾向や改善策の解析を東京大学の助言を得ながら行い、結果をフィードバックし予防への取組みを促進 【健康福祉部】</p> <p>オーラルフレイル予防の拡大</p> <p>○「食べる力・話す力」を維持・向上させるため、通いの場等を活用した専門職による健康体操などの歯と口腔の健康づくり教室を開催 【健康福祉部】</p> <p>社会の支え手として活躍できる環境の整備</p> <p>○次世代型の地域包括ケアシステムの推進を図るため、東京大学が開発した就労マッチングアプリ「GBER」を活用するモデル地区を増やしていくことで、第4期ジェロントロジー共同研究テーマである高齢者の地域における就労等支援を推進 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイルチェック参加者数 延べ3,900人（R4:延べ3,044人） ・教室開催市町数 17市町（R4:17市町） ・就労マッチングアプリ「GBER」を活用したモデル事業の実施 延べ5地区（R4:3地区）
<p>【施策13-2】 ○日常生活の中に仕掛ける健康づくりを促進</p> <p>通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動が実践できる環境整備を進め、県民が健康に暮らすことができる。</p>	<p>歩く県民運動を推進</p> <p>○ふくい桜マラソン開催に向けて、アプリ活用による企業対抗ウォーキング大会を実施するとともに、ショッピングセンターウォーキングやスニーカービズを定着させ、県民の歩く習慣を定着 【健康福祉部】</p> <p>1県民1スポーツの推進（再掲）</p> <p>○県民スポーツ祭や障スポ☆フェスタ、はびりゅうフェスタ等のスポーツ体験会や参加型のイベントの開催、クラブや指導者の育成など、県民がスポーツに親しむ環境づくりの推進 ※再掲（施策12-3） 【交流文化部】</p> <p>「ふくい100彩（さい）ごはん」を開発・普及</p> <p>○栄養豊富な大豆を取り入れたバランスのよい食事「ふくい100彩（さい）ごはん」レシピ集を活用し、イベント会場等で普及・啓発するとともに、東京大学と連携して高齢者のフレイルと食事摂取状況に関する調査研究を実施 【健康福祉部】</p> <p>健康リテラシー教育の実践</p> <p>○健康や医療機関へのかかり方等の内容を取りまとめた「かしこい患者学のすすめ」を出前講座にて説明 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会に参加する人数 8,000人（R4:-） ・成人のスポーツ実施率 60%（R4:54.8%） ・イベント会場等で「ふくい100彩ごはん」メニュー提供や意識改善アンケートを実施する回数 5回（R4:-） ・出前講座「かしこい患者学のすすめ」等の開催回数 2回（R4:-）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>たばこ対策の強化</p> <p>○ 未成年者や大学生への喫煙防止教室の実施や従業員の禁煙を応援する事業所に奨励金を支給 【健康福祉部】</p> <p>職域における生活習慣病の予防促進</p> <p>○ 経済界と保険者との連携強化による「健康経営」に取り組む事業所数の増加や、減塩等を意識した食生活改善を普及するとともに、かかりつけ医からの受診促進や、保険者間の連携による被扶養者の受診機会を拡大し、特定健診受診率の向上を目指す 【健康福祉部】</p> <p>健康改善の見える化</p> <p>○ 国保データベース等を活用し、市町における地域住民の健康改善効果を「見える化」する取組みを支援するとともに、わがまち健康推進員への研修に活用 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 喫煙防止教室の実施回数 6回（R4:3回） ・ 健康経営に取り組む事業所数 130事業所（R4:122事業所） ・ 取組市町数 17市町（R4:17市町）
<p>【施策13-3】</p> <p>○ 地域の健康づくりに専門家を活用し住民サポートを強化</p> <p>フレイルサポーターの交流会を行い、地域住民の健康をきめ細やかにサポートする。</p>	<p>健康づくりの担い手の育成強化</p> <p>○ ふくいフレイルサポーターの会を開催し、市町間を超えたサポーターの交流を促進するとともに、活動の機運を高めて住民主体型のフレイル予防事業を目指す。 【健康福祉部】</p> <p>専門人材との連携強化</p> <p>○ わがまち健康推進員と管理栄養士等の専門職が連携を図り、地域において食と運動に関する研修会等を開催し地域住民の健康づくりを支援する。 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレイルサポーター養成数 （累計） 1,000人（R4:858人） ・ 研修会等の開催 6回以上（R4:ー）

政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策14-1】 ○「地域完結型」の医療体制の確立</p> <p>県内どの地域においても、急性期医療からリハビリ、在宅医療まで、症状に応じた医療サービスを安心して受けられる。</p>	<p>医師の偏在是正</p> <p>○ 県外医学生への奨学金貸与や医療機関への採用支援により医師のUIターンを促すとともに、自治医科大学卒業医師や健康推進枠奨学生医師等の確保・勤務調整により、医師不足医療機関に対して医師を派遣 【健康福祉部】</p> <p>ドクターヘリの単独運航</p> <p>○ 福井県ドクターヘリの運航を滋賀県・岐阜県との相互応援体制により着実に進めるとともに、見学会の開催等により県民の理解を促進 【健康福祉部】</p> <p>医療ニーズに応じた体制づくり</p> <p>○ 公立・公的病院だけでなく民間病院も含め、将来担うべき役割などを協議し、地域医療構想に係る各医療機関の対応方針を決定 【健康福祉部】</p> <p>医療人材の確保・育成</p> <p>○ 保健所等において勤務する公衆衛生医師を確保するため、大学と連携して人材を育成するとともに、関係団体等に対し候補者の紹介等を依頼 【健康福祉部】</p> <p>○ 県外薬学生の県内就職促進や薬学部進学者の増加を図るとともに、薬剤師の資質向上などにより、医療機関・薬局等に必要な薬剤師を確保 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県ドクターヘリ出動件数 405件（R4:405件） ・ 地域医療構想に係る対応方針決定 110医療機関（R4:—） ・ 保健所実習の実施 100人以上（R4:—） ・ 薬学部進学者数 48人（R4:44人）
<p>【施策14-2】 ○「スマート医療」の推進</p> <p>一滴がん検診の研究の推進に貢献し、高齢者が身体的負担の少ないがん検診を受けられるようにする。</p>	<p>ICTやAI等による医療水準の向上</p> <p>○ 公立診療所においてオンライン診療やオンライン服薬指導、専門医による診療支援などを実施し、医療資源が不足する地域の医療提供体制を強化 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン診療等を行う公立診療所数 8箇所（R4:4箇所）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策14-3】</p> <p>○「次世代包括ケアシステム」の推進</p> <p>医療と介護の融合のみならず、フレイル予防や生活支援も含め、高齢者が状態に応じた適切な支援を受けながら地域で暮らすことができる。</p>	<p>回復型フレイルの導入</p> <p>○「ふくい型フレイル予防プログラム」について、市町のほか高齢者団体にも実施を促し全市町での参加者を拡大するほか、チェックデータの経年履歴から個人ごとの傾向や改善策の解析を東京大学の助言を得ながら行い、結果をフィードバックし予防への取組みを促進 ※再掲（施策13-1） 【健康福祉部】</p> <p>生活支援体制の整備</p> <p>○次世代型の地域包括ケアシステムの推進を図るため、東京大学が開発した就労マッチングアプリ「GBER」を活用するモデル地区を増やしていくことで、第4期ジェロントロジー共同研究テーマである高齢者の地域における就労等支援を推進 ※再掲（施策13-1） 【健康福祉部】</p> <p>在宅ケア提供体制の充実</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大を受けて見えてきた、医療と介護の連携体制の現状と課題を明らかにするため、医療機関等に対し在宅医療介護連携に関する実態調査を実施。その結果をもとに、各都市医師会と市町、多職種による在宅医療の進め方等を圏域ごとで協議し、在宅医療・介護連携体制を充実 【健康福祉部】</p> <p>「ACP」の普及啓発</p> <p>○ACPの普及啓発として、在宅医による在宅ケアサポートセンターの協力により作成した「福井県版エンディングノート（つぐみ）」を、公民館や高齢者サロン等で県民に広く周知 【健康福祉部】</p> <p>外国人介護人材の活用促進</p> <p>○タイの教育機関等と連携する本県の介護人材確保について、令和5年中旬と年度末の受入れに向け現地の教育機関において日本語と介護の教育を実施 【健康福祉部】</p> <p>介護職の魅力向上</p> <p>○介護業界の魅力向上を図るため、モデル事業所による働き方の見直し（選択的週休3日制度の導入・子育てがしやすい勤務制度等）や複数事業所の連携による人材確保・育成を実施 【健康福祉部】</p> <p>地域のニーズに応える介護施設の整備</p> <p>○第8期福井県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき、各市町における特別養護老人ホームなどのベッド数を増加整備（2023年度までに413床） 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイルチェック参加者数 延べ3,900人（R4:延べ3,044人） ・就労マッチングアプリ「GBER」を活用したモデル事業の実施 延べ5地区（R4:3地区） ・在宅で医療・介護を受ける人の数 （訪問看護の利用者数） 7,200人（R4:7,133人） ・配布部数 14,500部（R4:8,000部） ・県の事業によりタイから迎える技能実習生 20名（R4:14名（R5.6に7名追加で入国）） ・モデル事業所数 3箇所（R4:3箇所） ・特別養護老人ホーム等の増床数 （累計） 413床（R4:283床）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策14-4】</p> <p>○包括的な福祉相談体制の構築</p> <p>県民や世帯が抱える複合化した課題をワンストップで受け止める福祉相談体制を構築するなど各種支援機関と連携して、自立した生活の実現とくらしの安心を確保</p>	<p>包括的な支援体制の整備</p> <p>○ 発達障がい者が、早い段階で自分の特性や適正に気づき、企業等において自分らしくいきいきと活躍できるよう、自己理解ツールの普及、就労サポーターの育成と相談支援体制の整備、特性に応じた福井県版就労支援プログラムの普及、企業等への研修を進め、総合的な支援体制の整備を目指す。 【健康福祉部】</p> <p>困難事例への対応強化</p> <p>○ 県民が抱える複合化した課題をワンストップで受け止める「総合相談支援体制」を市町で構築するため、専門家を派遣 【健康福祉部】</p> <p>○ 市町におけるひきこもり対策への取組みを進めるため、引き続き市町の困難案件への後方支援を強化し、地域別市町連絡会を開催することで、ひきこもり支援体制のレベルアップを図るとともに、フリースペースへの参加を促進 【健康福祉部】</p> <p>医療的ケア体制の充実</p> <p>○ 障がい児の在宅医療の充実を図るため、医療的ケア児者支援センターが中心となり、対応できる医師や看護師等の養成や地域の支援体制構築の支援を行うとともに、医療的ケアが必要な方が利用できるグループホーム整備の支援体制の検討や医療的ケア児者を受け入れる事業所の増加を図る。 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障がい者サポーター配置市町13市町（R4:11市町） ・ 包括的な支援体制（相談支援包括化推進員の配置等）を構築する市町数17市町（R4:13市町） ・ ひきこもり支援を強化した市町5市町（R4:4市町） ・ 医療的ケア児者受入事業所新規追加4件（R4:-）

政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策15-1】 ○「住みやすさ改革」による豊かな地域コミュニティづくり</p> <p>集落機能の維持・活性化に対する支援に加えICTの活用や民間サービスとの連携による新たな共助の仕組みづくり、空き家の活用や除却などを進め、地域社会の活力を維持する。</p>	<p>将来にわたる集落機能の維持・活性化 安心して暮らせる集落生活圏の形成 小さな拠点による「つながり力」の強化</p> <p>○ 市町が実施する地域独自の集落活性化策や自治会イベントの開催、自治会加入促進活動を支援するとともに、空き家等を活用したふるさと茶屋の整備を支援し、集落機能の維持・活性化をサポート 【総務部】</p> <p>空き家の活用や取り壊しの促進</p> <p>○ 空き家の購入・リフォームや老朽空き家等の除却に対する補助を実施 【土木部】</p> <p>人口減少時代に対応した仕組みづくり 次世代型コミュニティの実現</p> <p>○ 地域外人材の活用や民間企業との連携などにより地域課題の解決を図る新しい共助の仕組みの導入に向け、3地区のモデル地区において実証事業を継続実施 【総務部】</p> <p>快適な暮らしを支えるインフラ施設の構築</p> <p>○ 汚水処理施設（下水道等）の整備や老朽化対策等を推進し、衛生的で快適な生活環境を創出・保全 【土木部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと茶屋等の取組地区数 36地区（R4:34地区） 空き家購入・リフォーム等件数 135件（R4:131件） 老朽空き家等の除却戸数 120戸（R4:100戸） 次世代コミュニティ創出モデルの取組地区数 3地区（R4:3地区） 汚水処理人口普及率 97.7%（R4:97.4%見込み（R5.8月公表予定））
<p>【施策15-2】 ○美しい景観の保全・形成</p> <p>歴史的まちなみや優れた自然景観など、美しい福井の風景を保全・形成する。</p>	<p>景観の保全・活用</p> <p>○ 伝統的民家群などを活用し地域の景観づくりを行う団体を支援 【交流文化部】</p> <p>クリーンアップふくいの推進</p> <p>○ 海ごみの発生防止につながる河川清掃や、海岸での楽しいごみ拾いイベントの開催を市町に呼びかけ、海岸の環境美化を推進 【エネルギー環境部】</p> <p>環境保全対策の推進</p> <p>○ 湖沼の水質監視や事業者への排出指導を行うとともに、水質改善策について調査研究を実施し、身近な水辺を保全 【エネルギー環境部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区指定数 2地区（R4:2地区） ごみ拾いイベント等の参加者数（市町主催）14,000人（R4:（県主催）1,092人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策15-3】</p> <p>○里山里海湖の保全・活用</p> <p>くらしの中で守られてきた豊かな自然環境を保全し、まちづくりに活かすとともに、その魅力で交流人口を拡大する。</p>	<p>自然再生の推進</p> <p>○三方五湖、北潟湖等において、地域住民と協働してヒシの刈取や外来種防除等の自然再生を進めるとともに、学びの森・海湖等での体験プログラム提供を促進 【エネルギー環境部】</p> <p>自然体験拠点の形成</p> <p>○六呂師高原活性化構想に基づき、自然保護センターの改修の検討を進めるとともに、日本一の本県の星空の魅力を普及する天文リーダーを養成 【エネルギー環境部】</p> <p>年縞博物館の魅力充実</p> <p>○特別展や周辺・近県施設と連携した企画等を開催、県内外からの教育旅行の誘致を促進、立命館大学など関係機関と連携した年縞研究を推進し、年縞の価値を国内外に発信 【エネルギー環境部】</p> <p>コウノトリが生息できる自然環境の創出</p> <p>○コウノトリの飛来地等において、巣塔など生息環境の整備や環境に配慮した農法等を推進し、コウノトリの定着・野外繁殖を促進 【エネルギー環境部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然再生取組地域数（累計）13地域（R4:12地域） ・天文リーダー（星のソムリエ）養成者数（累計）20人（R4:13人） ・年縞博物館の入館者数 60,000人（R4:41,767人） ・巣塔・ビオトープの設置箇所数（累計）11箇所（R4:9箇所）
<p>【施策15-4】</p> <p>○エネルギーと資源の循環型社会の構築</p> <p>持続可能な社会を実現するため、地球温暖化防止活動の普及や再生可能エネルギーの利用拡大、廃棄物の減量化とリサイクルにより環境対策を推進する。</p>	<p>未来を守るストップ温暖化</p> <p>○次世代自動車（EV・PHV・FCV）および急速充電設備の購入・導入を支援し、CO₂削減を推進 【エネルギー環境部】</p> <p>○産業団体等と連携して、国の補助金や省エネ対策に関するセミナー開催やアドバイザーを派遣するなど、中小企業の省エネ対策を支援 【エネルギー環境部】</p> <p>○省エネ性能の高い製品への購入・買替を支援する「ふく割」を発行し、電力使用量の削減による家計負担軽減を図るとともに、県民の省エネ実践を後押し 【エネルギー環境部】</p> <p>○エネルギー価格の高騰ならびに脱炭素社会の推進に対応した経営体質への転換を加速するため、県内企業が行う省エネ・省CO₂設備の導入を支援 【産業労働部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EV・PHV・FCV購入支援台数 520台（R4:-） ・急速充電設備導入支援台数 20台（R4:-） ・中小企業向け省エネセミナーの開催 2回（R4:-） ・購入・買替支援の「ふく割」発行枚数 2万枚（R4:-） ・省エネ・省CO₂に取り組む事業者数（累計）44件（R4:29件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>再生可能エネルギーの導入拡大</p> <p>○ 県内全域に再エネの普及を図るため、県内企業を対象に、太陽光発電および蓄電池設備の導入に係る経費を支援 【エネルギー環境部】</p> <p>嶺南スマートエリアの整備</p> <p>○ 嶺南市町におけるスマートタウンの整備に向け、外部専門人材を活用するなどして、エネルギー利用の最適化やI o Tを活用した魅力的なまちづくり等、市町の特徴ある施策を支援 ※再掲（施策7-4、施策9-5） 【エネルギー環境部】</p> <p>循環型社会の推進</p> <p>○ 「てまえどり」の啓発等による食品ロス削減、民間回収拠点拡充による紙資源の分別強化、プラスチック代替製品の普及により、一般廃棄物の減量化・リサイクルを推進 【エネルギー環境部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の太陽光発電設備支援 1,000kW分（R4:—） ・ 支援する市町数 5市町（R4:5市町） ・ 食品ロス削減に取り組む人の割合 83.0%（R4:82.4%）

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策16-1】 ○人と技術による地域防災力の向上</p> <p>県と市町の連携・協力の強化のほか、地域の自助・共助による防災力と新技術の力を融合、自然災害への対応力を向上する。</p>	<p>地域の防災力を多面的に強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消防団員の長期的な活動環境を整備するとともに、各市町消防本部と制度導入や増員について協議し、大規模災害団員の確保を促進 【防災安全部】 ○ 個別避難計画作成に対する課題解決のため、有識者等のアドバイザーを派遣するなど、市町を支援 【防災安全部】 ○ 福祉避難所の受入れ体制を強化するため、資機材の購入経費や施設整備への補助を行い、市町の取組みを支援 【健康福祉部】 <p>「自分の命は自分で守る」防災意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災士を養成するとともに、防災士の協力を得て地域での防災マップ作成を支援 【防災安全部】 <p>行政による防災対応・支援機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 積雪前の道路状況をタブレットに表示することにより、応援除雪のオペレータ等の作業を効率化 【土木部】 ○ 河川監視カメラ、危機管理型水位計を増設し、防災情報の提供を充実 【土木部】 ○ 目視外自動飛行機能を備えた災害用ドローンを活用することにより、被災状況を早期に把握し、県民に対して迅速かつ正確に情報を提供 【土木部】 ○ 流域治水対策の取組みを促進するため、既存の校庭等を活用した雨水貯留施設などのモデル施工を実施し、その整備手法や効果を関係機関に共有 【土木部】 <p>行政の連携による防災体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洪水ハザードマップを活用した市町による避難訓練の実施を支援 【土木部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害団員数（累計） 449人（R4:405人） ・ 支援する市町数 14市町（作成済みの3市町を除く） （R4:－） ・ 福祉避難所の受入れ体制を強化した施設数 80施設（R4:－） ・ 防災士数（累計） 4,150人（R4:4,105人） ・ タブレットを活用し除雪作業を実施するオペレータ人数 35人（R4:－） ・ 河川監視カメラおよび水位計設置数（累計） 262箇所（R4:222箇所） ・ 災害用ドローンを活用した訓練の実施 10回（R4:－） ・ 流域治水の推進に向けたモデル施工の取組み 全市町に事例等を共有（現場見学会1回、12月までに市町へ手引きを配布） ・ 洪水ハザードマップを活用した避難訓練を実施する市町数 9市町（R4:9市町）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>企業の防災・減災対応力を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内企業の事業継続計画（BCP）策定を進めるため、普及啓発や作成支援のためのセミナーを開催 【産業労働部】 <p>新たな感染症への対策強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症に対する医療提供体制の確保やワクチン接種の促進を継続するとともに、今後の新たな感染症発生時の医療提供体制等を定める感染症予防計画を策定 【健康福祉部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー延べ参加者数 150人（R4:92人） ・感染症予防計画を策定
<p>【施策16-2】 ○災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築</p> <p>事前防災対策および予防保全に基づいた老朽化対策等、「起きる前」を重視した県土強靱化を推進し、将来にわたり福井の安全・安心を確保する。</p>	<p>事前防災対策による「県土強靱化」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ダム建設事業や九頭竜川上流ダム再生事業の促進 ・足羽川ダム、吉野瀬川ダムの建設 【土木部】 ○ 河道整備および浚渫債を活用した河道掘削等を実施 ・底喰川、大蓮寺川等19河川の整備のほか、浚渫・伐木を実施 【土木部】 ○ 砂防堰堤等の整備により土砂災害対策を推進 ・番清水川（越前市東檜尾）、福谷地区（おおい町福谷）等 【土木部】 ○ 道路法面の落石対策等を推進 【土木部】 <p>予防保全に基づいた老朽化対策によるインフラ施設の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ダム、排水機場、道路施設等の長寿命化を推進 ・笹生川ダム、江端川第1排水機場、市荒川大橋、小近庄トンネル 等 【土木部】 <p>誰もが安心して暮らせるための環境・基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 空き家の購入・リフォームや老朽空き家等の除却に対する補助を実施 ※再掲（施策15-1） 【土木部】 <p>建設産業の担い手確保による地域防災力の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建設産業における外国人労働者の県内定着を促すため、建設産業外国人労働者相談センターにおける相談対応、特定技能移行に取り組む事業者への支援を実施 【土木部】 <p>国土強靱化地域計画の策定支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「福井県国土強靱化地域計画」を改定し、大規模自然災害に備えた強靱な地域づくりを推進 【未来創造部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野瀬川ダム本体打設 50%（R4:本体基礎掘削完了） ・河川の整備延長（県管理）（累計） 59.1km（R4:58.6km） ・土砂災害対策施設の整備（累計） 1,022箇所（R4:1,016箇所） ・緊急輸送道路における道路斜面对策率 38.1%（R4:37.2%） ・橋梁の長寿命化箇所数 67箇所（R4:64箇所） ・空き家購入・リフォーム等件数 135件（R4:131件） ・老朽空き家等の除却戸数 120戸（R4:100戸） ・特定技能移行実施事業者 70者（R4:37者） ・福井県国土強靱化地域計画を改定

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策16-3】 ○県民を守る犯罪・事故等の対策</p> <p>県民を犯罪や事故から守る対策を強化し、県民が安心して暮らせる社会を実現する。</p>	<p>子ども、女性、高齢者を守る対策の推進</p> <p>○ 地域の防犯力向上を図るため、自治会等による防犯カメラ等の防犯インフラ整備を支援 【防災安全部】</p> <p>犯罪の起きにくい社会づくり</p> <p>○ 犯罪を犯した者が孤立することなく再び社会を構成する一員となるよう、企業経営者を対象に、実際に出所者等を雇用している企業経営者などを招いた雇用促進のためのセミナーを開催 【健康福祉部】</p> <p>交通事故防止対策の推進</p> <p>○ 歩行者の交通死亡事故を抑止するため、高齢歩行者を対象とした交通安全教育の充実を図るとともに、横断歩道における歩行者優先キャンペーンを実施 【防災安全部】</p> <p>○ 児童、生徒の安全を確保するため、通学路等において歩道整備や防護柵設置など道路の安全対策を実施 【土木部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防犯インフラ整備支援地区数（累計） 20地区（R4:1-） 雇用促進セミナーの参加人数 120人（R4:105人） キャンペーン賛同事業者数 100社（R4:50社） 通学路における安全対策実施箇所数 45箇所（R4:59箇所）
<p>【施策16-4】 ○県民の安全最優先の原子力政策</p> <p>廃炉、40年超運転、使用済燃料の中間貯蔵など、原子力の様々な課題に対して、県民の安全を最優先し対応する。</p>	<p>責任ある原子力・エネルギー政策の実行を国に要請</p> <p>○ 原子力の将来像を明確にするとともに、原子力発電所に対する国民理解の促進、使用済燃料の中間貯蔵施設への関係者理解確保に主体的に取り組むなど、国が責任を持って対応するよう要請 【防災安全部】</p> <p>原子力発電所の運転、もんじゅをはじめとする廃炉作業等を安全最優先で対応</p> <p>○ 原子力発電所の運転や廃炉作業等の安全性について、県原子力安全専門委員会の審議を通じて厳正に確認し、県民の安全最優先で対応 【防災安全部】</p> <p>原子力防災体制の充実・強化</p> <p>○ 国の広域避難計画（緊急時対応）に基づく、住民・関係機関が参加する原子力防災訓練を実施 【防災安全部】</p> <p>嶺南地域への自衛隊誘致</p> <p>○ 原子力発電所が集中立地する嶺南地域において、いかなる状況においても迅速な事態対処を可能とするための自衛隊配備について、嶺南6市町とともに要請 【防災安全部】</p>	
<p>【施策16-5】 ○拉致問題への対応</p> <p>市町や関係団体と連携し県民への啓発に努めるとともに、国に対し、あらゆる機会をとらえ、解決に向けた取り組みを要請する。</p>	<p>拉致問題の啓発と国への要請</p> <p>○ 拉致問題の風化を防ぐため、国に対し問題解決に向けた取組みを要請するとともに、国や関係団体と連携し、高校での出前講座や街頭啓発活動等を実施 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高校での出前講座実施 2校（R4:2校）

政策17 「チームふくい」の行政運営



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策17-1】 ○県民主役の県政推進</p> <p>長期ビジョンを策定し、県民と将来像を共有するとともに、徹底現場主義に基づき、職員が自発的に現場に赴き県民の声を県政に反映させる「県民主役の県政」を実現する。</p>	<p>クレド（行動規範）の策定・活用</p> <p>○ 研修実施等による意識着とともに、クレドアワードにおける実践事例の表彰や、クレドを評価項目に反映した人事評価の施行など、実効性を高める施策を推進 【総務部】</p> <p>現場機能の強化・効率化</p> <p>○ 嶺南地域の防災体制を維持するため、「嶺南振興局危機対策幹」を配置 【総務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クレド研修参加人数 600人（R4:446人）
<p>【施策17-2】 ○市町との協働強化</p> <p>人口減少や地域ごとの課題に対応するため、県と市町が協働して課題解決に取り組み、住民サービスを向上し行政運営を効率化する。</p>	<p>県と市町の行政サービスの一元化推進</p> <p>○ 県と市町で構成する福井県電子自治体推進協議会において、ファイル共有システムの利活用や、チャットアプリの共同利用について検討し、県・市町の共同化を推進 【未来創造部】</p> <p>市町の基幹業務システムの標準化支援</p> <p>○ 国が求める期限までの市町基幹業務のシステム標準化・政府クラウド移行に向けて、県内市町の取組みに横グシを通じた伴走支援を強化 【未来創造部】</p> <p>予算編成の協働</p> <p>○ 市町からの重要要望や市町長との政策ディスカッションを通じ、市町のニーズ等を的確に把握し、県の予算編成に反映 【総務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県電子自治体推進協議会における共同化等の検討 4回（R4:5回） ・ 移行等の計画立案を終えた市町数 17市町（R4:ー） ・ 市町重要要望および市町長との政策ディスカッションを実施
<p>【施策17-3】 ○未来をデザインする政策イノベーション</p> <p>SDGsの理念に基づく県政運営や、デザイン思考による「課題解決型」から「価値創造型」へのモデルチェンジ、生活・産業・行政の各分野におけるDXの推進など、長期ビジョンの将来像を実現する新たな政策形成システムを構築する。</p>	<p>SDGsの推進</p> <p>○ 「ふくいSDGsパートナー」登録企業・団体等が一体となってSDGsの普及啓発を図るとともに、パートナー同士の連携・協働を拡大し、「福井の未来を担う次世代の育成」を核とした持続可能な地域づくりを推進 【未来創造部】</p> <p>デザイナーのアイデアを政策に反映する仕組みの構築</p> <p>デザインの視点を浸透</p> <p>○ 県内企業が持つ取材力と発信力を活かして県民の「チャレンジ」を応援する文化を育成し、県民の自信と誇りを醸成する「ふくい最高！プロジェクト」を実施 【未来創造部】</p> <p>○ 県内デザイナー・クリエイター等のアイデアを政策に反映する「政策デザイン」の仕組みを活用し、効果的で質の高い政策立案を全庁的に実施するとともに、デザインの視点や発想の有用性を県内外に発信 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「SDGsパートナー」登録数（累計） 1,050機関（R4:922機関） ・ 県民のチャレンジ等を集約した「県民ブランドハンドブック」を作成 ・ 政策デザインによる政策立案件数 10件（R4:10件）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
	<p>デジタルの力で県民の生活の質を向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「スマート福井」実現を掲げて、「福井県DX推進プログラム」に基づく、生活・産業・行政の各分野におけるDXを推進し、課題解決と新たな価値創造に取り組む 【未来創造部】 <p>OODAループによる政策形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 政策トライアル枠予算・タスクフォースによる新事業立ち上げや若手職員による「チャレンジ政策提案」などにより、現場の状況に応じた政策を機動的に立案 【総務部・未来創造部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施事業数（「福井県DX推進プログラム」記載） 83件（R4:73件） ・ チャレンジ政策提案エントリー件数 15件（R4:16件）
<p>【施策17-4】</p> <p>○仕事の進め方改革と人材の育成</p> <p>ICTを活用した住民の利便性向上や業務効率化を行い、質の高い・持続可能な行政サービスを提供するスマート自治体を実現する。</p>	<p>AI等の積極活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の見直しや共通業務への横展開などにより、AI・RPA・ローコード開発等の新技術を積極的に導入し、事務処理の効率化を推進 【未来創造部】 <p>効率的な働き方・多様な働き方の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル活用による業務効率化や徹底したペーパーレス化を進め、福井県庁働き方改革“Life Style Shift”を推進 【総務部】 ○ Web会議の活用やテレワークの推進など、職員の効率的で多様な働き方を推進 【総務部・未来創造部】 <p>適正な人員配置と能力・多様性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国最少水準の職員数を基本としつつ、新幹線開業対策などの重点分野等に必要人員を配置 【総務部】 <p>グローバル人材の育成・活躍推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際機関（（一財）自治体国際化協会（CLAIR）バリ事務所）や外国大学院へ職員を派遣し、グローバル人材を育成 【総務部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI・RPA・ローコード開発等の新規導入業務数 100業務（R4:233業務） ・ 職員一人あたりの年間超過勤務時間 125時間（R4:149時間） ・ 月1回以上定期的にテレワークを実施した職員（県立病院、こども療育センターを除く） 60%（R4:46.9%） ・ 全国最少水準の職員数を維持 ・ 海外機関への職員派遣数 2人（R4:2人）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策17-5】 ○健全財政の堅持</p> <p>北陸新幹線など大型プロジェクトの財源を安定して確保するとともに、歳出の合理化・重点化を進め、健全な財政運営を行う。</p>	<p>歳入の確保</p> <p>○ 中部縦貫自動車道などの大型プロジェクトに伴う超長期債発行や、「ふるさと納税」の拡大、宝くじの販売を促進 【総務部】</p> <p>歳出の合理化・重点化</p> <p>○ 「政策トライアル枠予算」の部局単位での上限額を撤廃するほか、翌々年度の新規事業立案が可能となるよう、機動的にチャレンジできる環境を整備 【総務部】</p> <p>県有資産のマネジメント強化</p> <p>○ 国交付金の活用や、交付税措置率の高い公共施設等適正管理推進事業債などを積極的に活用し、県有施設等の長寿命化を推進するほか、活用見込みのない職員住宅を貸し出すなど、県有財産を有効に活用 【総務部】</p> <p>収支見通しに基づく健全な財政運営</p> <p>○ 予算編成と合わせて今後10年間の財政収支見通しを毎年度策定・公表 【総務部】</p> <p>○ 財政調整基金残高の確保、県債残高の適正管理 【総務部】</p>	<p>・ 行財政改革アクションプランに基づき健全な財政を維持 財政調整基金残高 100億円以上（R4見込:151億円） 将来負担比率 200%未満（R4見込:162.2%） 県債残高 6,000億円未満（R4見込:5,390億円）</p>

政策18 広域パートナーシップの強化



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
<p>【施策18-1】 ○広域連携による高速交通網の整備促進</p> <p>関西・中部・北陸の各府県と足並みをそろえた国への要請等により、県境フロンティア政策の基盤となる北陸新幹線や中部縦貫自動車道といった高速交通網の整備を促進する。</p>	<p>北陸新幹線の整備促進（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金沢・敦賀間 今年度末の確実な開業に向け、連絡会議を通じて、機構の事業執行を確認するとともに、政府・与党に要請。開業日には、開業を祝して記念式典を開催 ※再掲（施策9-1） 【未来創造部】 ○ 敦賀・新大阪間 1日も早い認可・着工および全線開業に向け、沿線自治体・経済界と連携して今後のスケジュール感の早急な明示等を政府・与党に要請。関西の機運醸成に向けて、福井・敦賀開業と合わせて全線開業をPRするなど情報発信を強化 ※再掲（施策9-1、施策9-4） 【未来創造部】 <p>中部縦貫自動車道の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 沿線自治体や中部地域等の関係者と連携し、中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通を政府・与党へ要請 【土木部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度末の福井・敦賀開業 ・ 敦賀以西の延伸のための政府予算の確保 ・ 早期開通に向けた要望活動を実施 8回（R4: 9回）
<p>【施策18-2】 ○広域連携による交流の拡大</p> <p>高速交通網の整備により近くなる近隣都府県との連携を強化し、人・モノ・情報の交流を拡大する。</p>	<p>国内外からの広域観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育旅行の誘致について、教育旅行の訪問先に福井が選ばれるように、石川県、富山県と連携し首都圏および関西圏の学校等に対しPR 【交流文化部】 <p>インバウンドの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪万博などにより訪日客が見込まれる関西の観光団体等と連携し、伝統工芸やアクティビティなどテーマ性を持った広域周遊観光ルートを開発 ※再掲（施策10-3） 【交流文化部】 <p>港湾の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外および国内展示会の出展等により海外クルーズ客船の誘致活動を強化し、寄港の拡大およびラグジュアリー客船等の誘致を推進 ※再掲（施策9-4） 【産業労働部】 <p>小松空港の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小松空港の国際定期路線の台北便に続く運航再開に向けて、石川県と連携して航空会社に働きかけ ※再掲（施策9-4） 【未来創造部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行現地研修会、商談会などの開催件数 6回（R4: 5回） ・ 広域周遊観光ルートの共同開発件数 3件（R4: 2件） ・ クルーズ客船寄港回数 3回（R4: 3回）

目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策18-3】 ○広域連携による防災・医療体制の強化</p> <p>自然災害等に備えた情報共有や広域的な訓練、災害発生時の迅速な対応に向け、広域連携を強化する。</p>	<p>行政の連携による防災体制強化</p> <p>○ タイムラインに基づき、道路管理者や警察、気象台、自衛隊等の関係機関による雪害対策合同訓練を実施 【土木部】</p> <p>災害からの復旧・復興</p> <p>○ 中部圏知事会や近畿ブロック知事会における災害時の相互応援に関する協定に基づき、人員確保が困難となる土木、建築、保健師等の技術職員や行政職員について、被災地自治体の要望により派遣 【未来創造部】</p> <p>家畜の疾病対策</p> <p>○ 全国的な発生状況を踏まえ、近隣県や自衛隊等との情報共有を図り、防疫措置に伴う関連業務の応援体制や資材融通の協議を実施 【農林水産部】</p> <p>広域医療体制の整備</p> <p>○ 福井県ドクターヘリの運航を滋賀県・岐阜県との相互応援体制により着実に進めるとともに、見学会の開催等により県民の理解を促進 ※再掲（施策14-1） 【健康福祉部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同訓練を実施(11月末) ・ 各領域で協議を実施（8月） ・ 福井県ドクターヘリ出動件数 405件（R4:405件）
<p>【施策18-4】 ○自治体ネットワークによる政策立案と提言</p> <p>関西、中部、北陸など他県との連携を進め、様々な交流を拡大するとともに、地域連携による新たな政策提言を行うことにより、都市と地方の課題解決につなげる。</p>	<p>都道府県連携の推進</p> <p>○ 全国知事会、ブロック知事会、近隣県知事との懇談会を通じ、地方としての課題を共有し、解決のための施策を企画・集約して国に提言 【未来創造部】</p> <p>共通意識を持つ自治体の広域連携</p> <p>○ 将来世代応援知事同盟において、子育て世代の負担軽減や地方への新しい人の流れを創出するための政策を国に提言 【未来創造部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他都府県等と新たに連携して実施するプロジェクト数（累計） 12件（R4:9件）